

## 訓練計画説明に係る面談（5週間前）時の確認事項

### ● 全般

#### ○訓練計画<資料>

- ・ 中期計画上の今年度訓練の位置付け・・・資料 1
- ・ 今年度訓練の目的、達成目標・・・資料 1
- ・ 主な検証項目・・・資料 1
- ・ 実施・評価体制・・・資料 1
- ・ 訓練の項目・内容（防災業務計画の記載との整合）及び評価基準・・・資料 1
- ・ 訓練シナリオ
  - プラント運転状態、事象想定、スキップの有無等・・・資料 1~5
  - 現状のプラント状態を踏まえた訓練の実施方針・・・資料 1
- ・ その他
  - ERSS/SPDS の使用・・・資料 1
  - COP 様式・・・資料 6
  - 即応センター、緊対所レイアウト図・・・資料 7,8
  - ERC 対応ブース配席図、役割分担・・・資料 9
  - ERC 書架内の資料整備状況（資料一覧）・・・資料 10,11

#### <資料>

- |  |              |    |
|--|--------------|----|
| 1. 2022 年度浜岡原子力発電所総合訓練実施計画書              | 別紙 1 - 1     | 参照 |
| 2. 2022 年度総合訓練シナリオ                       | 別紙 1 - 2 - 1 | 参照 |
| 3. 指標の紐づけ・場面設定のねらい                       | 別紙 1 - 2 - 2 | 参照 |
| 4. 現場実動訓練について                            | 別紙 1 - 2 - 3 | 参照 |
| 5. 2022 年度総合訓練 訓練の流れ                     | 別紙 1 - 2 - 4 | 参照 |
| 6. COP 様式                                | 別紙 1 - 3     | 参照 |
| 7. 本店即応センターレイアウト図                        | 別紙 1 - 4     | 参照 |
| 8. 発電所緊急時対策所レイアウト図                       | 別紙 1 - 5     | 参照 |
| 9. ERC 対応ブース配置図、役割分担                     | 別紙 1 - 6     | 参照 |
| 10. 浜岡原子力発電所 原子力災害時の対応資料集【第 I 編 適合炉】目次   | 別紙 1 - 7 - 1 | 参照 |
| 11. 浜岡原子力発電所 原子力災害時の対応資料集【第 II 編 未適合炉】目次 | 別紙 1 - 7 - 2 | 参照 |

● 指標 1 : 情報共有のための情報フロー [P]

- 発電所、本店（即応センター）、ERC の 3 拠点間の情報フローを確認する 資料 12
- ・情報フローとは、次の 5 つの情報
    - ①EAL に関する情報
    - 指標 2 に示す情報（②事故・プラントの状況、③進展予測と事故収束対応戦略、④戦略の進捗状況）
    - ⑤ERC プラント班からの質問への回答
      - について、いつ、どこで、だれが、なにを、どんな目的で、どのように、の観点からみた、情報伝達の一連の流れをいう。
  - 情報フローにおいて、前回訓練における課題及び当該課題を踏まえた改善点を確認する
    - ①前回訓練で情報フローに問題がある場合
      - ・前回訓練での情報共有における問題が発生した事業者は、問題に対する課題の抽出、原因分析及び対策を確認する。
      - ・その上で、情報フローが対策を反映したものとなっているか確認する。
    - ②前回訓練で情報フローに問題がない場合
      - ・情報フローに対し、更なる改善点が無いか検証した結果を確認する。

<資料>

12. 情報共有のための情報フロー

別紙 2 参照

● 指標 2 : ERC プラント班との情報共有 [D]

- ERC 対応ブース発話者の育成・多重化の考え方を確認する
- 訓練当日、ERC 対応ブース発話者をくじ引き等により選定することの可否（否の場合は、その理由）を確認する

<資料>

13. ERC 対応ブース発話者育成について

別紙 3 参照

<説明>

○ERC 対応ブース発話者の育成・多重化の考え方

複数号機同時発災を考慮し、メインスピーカー2名、サブスピーカー2名が本店要員の必要数としている。また、人事異動等による減員を考慮し、毎年メインスピーカー1名、サブスピーカー1名の候補者を発話育成対象者として選定のうえ、総合訓練（社内全社防災訓練）や図上演習（本部運営習熟訓練）等を実施し、ERC 対応ブース発話者（メインスピーカー、サブスピーカー）の育成・多重化に取り組んでいる。

また、3社アライアンス（東京電力 HD 株式会社、北陸電力株式会社との原子力安全向上にかかる相互技術協力協定）の枠組みを通じ、模擬 ERC 役を相互に派遣して訓練を行い、評価やノウハウを共有し合う取り組みを実施している。さらに ERC 対応ブースのメインスピーカー、サブスピーカーについては、他社訓練の視察（DVD、

TV 会議システムでの視察を含む) を実施し、他社の良好事例の導入等の力量向上に取り組んでいる。

○訓練当日、ERC 対応ブース発話者をくじ引き等により選定することの可否

訓練においては、発話者の育成・多重化を図るため、ERC 対応ブース発話者（メインスピーカー及びサブスピーカー）に未経験の候補者を選定している。よって、今回の訓練では、くじ引き等ではなく新規候補者の中から選定する。

● **指標 3：情報共有のためのツール等の活用〔D〕**

- 3-1 プラント情報表示システムの使用
  - ・使用するプラント情報表示システムを確認する（実発災時とシステムの差異も確認する）
- 3-2 リエゾンの活動
  - ・事業者が定めるリエゾンの役割を確認する
- 3-3 COP の活用
  - ・COP の作成・更新のタイミング、頻度を確認する
- 3-4 ERC 備付け資料の活用
  - ・ERC 備付資料の更新状況を確認する

**指標 3-1**

<説明>

○発電所-即応センター間のプラント情報表示システム

浜岡 4 号機で想定する事故シナリオは、訓練シミュレータと連動して実施するため、当該訓練シミュレータから出力された SPDS データを専用のパソコン端末に表示する。

○即応センター-ERC 間のプラント情報表示システム

ERC リエゾンが ERC に持ち込む PC を通じて、即応センターから ERC へ訓練シミュレータの SPDS 画面を伝送表示する。

原子力規制庁から即応センター-ERC 対応ブース発話者又は ERC リエゾンへ要求があれば、ERC 対応ブースの要員が SPDS 表示端末を操作することで伝送表示している画面を切り替えることが可能である。

○実発災時とシステムの差異

実発災時における ERC への情報共有は、上述の対応による SPDS データの伝送表示に加え、ERSS 端末によるプラント情報の確認が可能である。ただし、ERSS 端末については、訓練シミュレータと連動していないため、本訓練では使用しない。

### 指標 3-2

<説明>

#### ○ERC リエゾン活動内容

ERC リエゾンは、即応センターの活動を補助する目的で、資料の配布、補足説明や質問対応及び ERC で得た情報の即応センターへの提供等を行う。

<ERC リエゾン対応のマニュアル記載事項（抜粋）>

- － 随時更新される COP をはじめ、その他の即応センターが説明に使用する資料を入手・配布
- － ERC プラント班が必要とする情報に対し、即応センターからの情報が不足する場合には、即応センターへ追加情報等の発信指示
- － ERC プラント班と即応センターで認識の齟齬が生まれている場合には、追加説明の実施・即応センターへ追加情報の発信指示
- － TV 会議等のツールに不具合が発生した場合に即応センターへ対応を指示する等、ERC プラント班と即応センター間の円滑な情報共有の支援
- － ERC 広報班への広報資料の共有、質問対応 等

### 指標 3-3

<説明>

#### ○COP の作成・更新のタイミング、頻度

COP は、プラント状態が変化する都度（EAL 判断のタイミングなど）の作成及び更新を基本とする。

COP の種類	発行タイミング	更新タイミング（頻度）
・ 浜岡 4 号機（適合炉用） 機能別状況シート（COP1）	ファーストヒットの EAL 判断 以降速やかに発行（5 分程度を 目標※） ※体制構築までの時間は除く	プラント状態変化の都度 更新（状態変化が無い場 合でも 30 分毎に更新）
・ 浜岡 4 号機（適合炉用） 設備状況シート（COP2）		
・ 浜岡 4 号機（適合炉用） 重大な局面シート（COP3）	ファーストヒットの EAL 判断 以降発行（30 分程度を目標）	戦略変更の都度更新（－）
・ 浜岡 3 号機（未適合炉用） 機能別状況シート（COP1） ・ 浜岡 5 号機（未適合炉用） 機能別状況シート（COP1）	EAL31 判断後、速やかに発行 （5 分程度を目標※） ※体制構築までの時間は除く	プラント状態変化の都度 更新（状態変化が無い場 合でも 60 分毎に更新）
・ 浜岡 3 号機（未適合炉用） 重大な局面シート（COP3） ・ 浜岡 5 号機（未適合炉用） 重大な局面シート（COP3）	戦略決定後に発行	戦略変更の都度更新（－）

### 指標 3-4

<説明>

#### ○ERC 備付け資料の活用

ERC 備付け資料については更新作業を実施中である。

別紙 1-7 参照

## ● 指標 4：確実な通報・連絡の実施〔D〕

### ①通報文の正確性

○通報 FAX 送信前の通報文チェック体制、通報文に誤記等があった際の対応を確認する

○発出した EAL が非該当となった場合の対応を確認する

○通報に使用する通信機器の代替手段を確認する

### ②EAL 判断根拠の説明

○EAL 判断根拠の説明方法（情報の入手や説明資料など）を確認する

### ③10 条確認会議等の対応

○10 条確認会議、15 条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名を確認する

### ④25 条報告

○25 条報告の発出タイミングの考え方を確認する

○訓練事務局が想定する、今回訓練シナリオ上の 25 条報告のタイミング、報告内容（発生事象と対応の概要、プラント状況、放出見通し状況、モニタ・気象情報など）、回数（訓練シナリオ中の記載されているか）を確認する。

### 指標 4-①

<説明>

#### ○通報 FAX 送信前の通報文チェック体制、通報文に誤記があった際の対応

通報・記録 G 班員（情報戦略班）が通報文を作成後、通報・記録 G 副班長（情報戦略班）及び発電所本部席要員が記載内容をチェックする。また、通報連絡実施後に通報文に誤記があることを確認した場合は、誤記を見え消しで修正し、当該通報文を再度送付する。なお、この場合通報文の報数（第〇報）を更新する。

#### ○発出した EAL が非該当となった場合の対応

発出した EAL が非該当となった場合は、ERC に根拠の説明をした後、警戒事態該当事象発生連絡後の状況連絡又は原災法第 25 条報告様式を用いて、当該 EAL の非該当を連絡する。また、非該当となった EAL が再度該当した場合には、所定の通報様式で再度通報連絡を行う。

#### ○通報に使用する通信機器の代替手段

NTT 回線 FAX による代替手段として、統合原子力防災 NW 回線 IP-FAX を使用して通報連絡を行う。

**指標 4-②**

<説明>

○EAL 判断根拠の説明方法（情報の入手や説明資料など）

EAL については、発電所緊急事態対策本部の本部長（原子力防災管理者）が該当判断を行う。即応センターは、発電所の会議を ERC 対応 G が TV 会議傍聴により該当判断の情報を入手し、EAL 判断ガイド等を用いて判断根拠の説明を行う。

**指標 4-③**

<説明>

○対応予定者の職位・氏名

原子力本部 原子力部長



マスクング箇所  
(理由：個人情報のため非開示)

**指標 4-④**

<説明>

○25 条報告の発出タイミングの考え方

最初の原災法第 10 条通報以降、1 時間を目安に応急措置の実施状況について原災法第 25 条報告を実施し、2 報目以降は 1 時間毎を目安に定期的実施する。また、応急措置を実施した場合は準備でき次第、原災法第 25 条報告を実施する。ただし、原災法第 25 条報告作成中に原災法第 10 条事象が発生した場合は、迅速な情報共有の観点から原災法第 10 条通報を優先する。

○訓練事務局が想定する、今回訓練シナリオ上の 25 条報告のタイミング、回数

今回の訓練シナリオでは、訓練シナリオ中に記載の通り 2 報予定している。ただし、訓練終了タイミングや訓練シミュレータでの運転操作、プラント挙動により増減する可能性あり。

● 指標 5：前回訓練までの訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定〔P〕

- 訓練実施計画が、前回訓練の訓練結果を踏まえ、問題・課題に対する改善策が有効に機能するものであるか検証できる計画（訓練実施項目、訓練シナリオ等）となっていることを確認する
- 訓練時における当該改善策の有効性の評価・確認の方法（例えば、訓練評価者が使用する評価チェックリスト（改善策の有効性を検証するための評価項目、評価基準などが明確になっているもの）が作成されていることなど）を確認する
- 課題の検証につき、社内自主訓練・要素訓練、他発電所の訓練で対応している場合は、その検証結果を確認する
- 今年度の訓練で課題検証を行わない場合にあっては、その理由と検証時期の説明、中期計画等への反映状況を確認する。また、今年度の訓練で課題検証を行わずとも緊急時対応に直ちに問題は無いことを確認する

<資料>

- 1. 2022 年度浜岡原子力発電所総合訓練実施計画書 別紙 1 - 1 参照
- 14. 社内訓練等からの改善活動実施状況 別紙 4 参照

● 指標 6：シナリオの多様化・難度〔P〕

- 訓練シナリオのアピールポイントを確認する
- シナリオ多様化に関し、付与する場面設定を確認する
- 訓練プレーヤーへ難度の高い課題をどのように与えているかを確認する  
例)
  - ・ 時間：要員が少ない時間帯
  - ・ 場所：対応が困難となる場所
  - ・ 気象：通常訓練で想定しない天候や組み合わせなど
  - ・ 体制：キーとなる要員の欠員
  - ・ 資機材：手順外の資機材の活用
  - ・ 計器故障：EAL 判断計器または重要計器故障、これに伴う代替パラメータでの確認
  - ・ 人為的ミス：操作や報告のミス
  - ・ OFC 対応：要員派遣に加え、オンサイトと連携した活動
  - ・ 判断分岐：マルチエンディング、途中の判断分岐など
  - ・ その他：複数の汚染傷病者など

<説明>

○発災を想定する号機

4号機（適合炉）と3号機（未適合炉）の複数号機同時発災を想定する。

### ○EAL判断(地震、津波等を除く)

- 4号機はGE、3号機はSEが発出する事象とする。
- ・1、2号機(廃止措置炉)なし
- ・3号機(未適合炉) AL:1、SE:1(対応によってはGEに至る)
- ・4号機(適合炉) AL:3  
SE:2(運転操作又は判断分岐によっては最大3となる)  
GE:1
- ・5号機(未適合炉)なし

### ○場面設定等

付与する場面設定の詳細内容、ねらい等については別紙1-2-2「指標の紐づけ・場面設定のねらい」参照。

- ・時間 : ー
- ・場所 : 地震・火災によるアクセスルート障害
- ・気象 : ー
- ・体制 : ー
- ・資機材 : 火災発生時の消火装置不具合  
: アクセスルート復旧車両の故障
- ・計器故障 : モニタリングポストの故障
- ・人為的ミス : ー
- ・OFC対応 : OFCへの要員派遣
- ・判断分岐 : 訓練シミュレータと連動  
マルチエンディング
- ・その他 : 複数箇所での火災  
: 汚染傷病者に係る対応措置

## ● 指標7: 現場実動訓練の実施 [D]

- 現場実動訓練の実施内容を確認する
- 事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携を確認する
- 他原子力事業者評価者の受け入れ予定を確認する

<説明>

### ○現場実動訓練の実施内容

内容 : 地震により緊急停止した4号機の代替注水を確保するために、代替注水設備保管場所~4号機原子炉建屋間のがれきを撤去し、アクセスルートを確認する。訓練方法については、別紙1-2-3「現場実動訓練について」参照。マルファンクションの詳細については、「指標6: シナリオの多様化・難度」にて説明。



○事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携に係る説明

本訓練は、総合訓練の事故シナリオと連動して実施し、発電所緊急事態対策本部が戦略を検討、現場要員にアクセスルート確保を指示する。現場要員は本部指示に従い、現場でのがれき撤去対応を模擬訓練フィールドにて実動で実施する。また、本店緊急事態対策本部は、現場の活動状況を把握するとともに、ERCへプラント状況及び戦略に係る説明を実施する。

○他原子力事業者評価者の受け入れ予定

中国電力株式会社（1名）及び日本原子力発電株式会社（1名）に評価を実施頂く予定。

● **指標8：広報活動〔D〕**

○評価要素①～⑤それぞれについて、対応、参加等の予定を確認する

<説明>

①ERC広報班と連動したプレス対応

東京支社及び東京支社派遣Gより、ERC広報班リエゾンとして2名派遣し、ERC広報班と連動したプレス対応を実施予定。

②記者等の社外プレーヤの参加

模擬記者として、中部経済新聞の記者に参加いただく予定。

③他原子力事業者広報担当等の社外プレーヤの参加

模擬記者として、北陸電力HD株式会社の広報担当に参加いただく予定。

④模擬記者会見の実施

模擬記者会見を実施する。

⑤情報発信ツールを使った外部への情報発信

模擬ホームページへの掲載を実施する。

● 指標 9 : 後方支援活動 [D]

- |  |
|--|
| <p>○評価要素①～③それぞれについて、具体的活動予定（特に、実動で実施する範囲を明確にすること）を確認する</p> <p>○一部を要素訓練で実動し、残りを総合訓練で実動するなど、複数の訓練を組み合わせ一連の後方支援活動の訓練を実施する場合はその内容を確認する</p> |
|--|

<説明>

①原子力事業者間の支援活動

原子力事業者間協力協定に基づく支援要請（実連絡）を実施する。また東京電力 HD 株式会社及び北陸電力株式会社の技術者を当社へ派遣いただき、各本社の窓口との情報連絡を実施していただく。

②原子力事業所災害対策支援拠点との連動

災害対策支援拠点を模擬した本店会議室にて、通信機器を設置し、即応センターとの連携を実動で実施する。

なお、災害対策支援拠点の身体・車両スクリーニング及び除染設備の立上げ、運営に係る訓練については、2022 年 10 月 12 日に災害対策支援拠点候補地である島田電力センター掛川分室にて実施した。また、出入管理、線量管理に係る機器の立上げ、運営に係る訓練については、2023 年 2 月に本店会議室で実施予定である。

③原子力緊急事態支援組織との連動

即応センターから原子力緊急事態支援組織（美浜原子力緊急事態支援センター）への支援要請（実連絡）を実施する。

支援要請以降の活動については、要素訓練として 2023 年 2 月中旬に無線重機操作訓練を実施する予定である。

● 指標 10 : 訓練への視察など [A]

(①他原子力事業者への視察)

○他事業者への視察実績、視察計画を確認する

(②自社訓練の視察受け入れ)

○自社訓練の視察受け入れ計画（即応 C、緊対所それぞれの視察受け入れ可能人数、募集締め切り日、募集担当者の氏名・連絡先）を確認する

(③ピアレビュー等の受入れ)

○ピアレビュー等の受入れ計画（受入れ者の属性、レビュー内容等）を確認する

(④他原子力事業者の現場実動訓練への視察)

○視察又は評価者としての参加の実績、予定を確認する

<説明>

① 他事業者への視察実績、視察計画

以下の原子力事業者訓練（発電所、即応センター）について視察を実施（現地訪問又は DVD 視察若しくは統合原子力防災ネットワークの TV 会議システムによる ERC 訓練視察）、又は視察予定である。

- ・日本原子力発電 東海第二発電所（2022 年 10 月 11 日）
- ・東京電力 HD 福島第一・第二原子力発電所（2022 年 10 月 17 日）
- ・中国電力 島根原子力発電所（2022 年 11 月 15 日）
- ・東北電力 東通原子力発電所（2022 年 11 月 25 日）
- ・日本原子力発電 敦賀原子力発電所（2022 年 12 月 2 日）
- ・四国電力 伊方原子力発電所（2022 年 12 月 9 日）
- ・北陸電力 志賀原子力発電所（2023 年 1 月 31 日予定）
- ・東京電力 HD 柏崎刈羽原子力発電所（2023 年 2 月 3 日予定）

② 自社訓練の視察受け入れ計画

<視察受け入れ可能人数>

- ・電力会社

現地視察又は DVD 視察を計画する。

<募集担当者>

原子力部 防災・核物質防護 G 課長

マスキング箇所  
(理由：個人情報のため非開示)

### ③ ピアレビュー等の受入れ計画

東北電力株式会社及び四国電力株式会社により、2023年2月10日の防災訓練（原子力規制庁評価対象訓練）における緊急時対策所及び即応センターの活動を評価いただく予定。また、ただし、新型コロナウイルス感染状況によっては、DVD視聴による評価とする。

#### <緊急時対策所>

東北電力株式会社 1名

四国電力株式会社 1名

#### <現場実動訓練（再掲）>

日本原子力発電株式会社 1名

中国電力株式会社 1名

#### <即応センター>

東北電力株式会社 1名

四国電力株式会社 1名

### ④ 他原子力事業者の現場実動訓練へのDVD視察又は評価者としての参加の実績、 予定

以下の他原子力事業者の現場実動訓練について評価者として参加した。

- ・志賀原子力発電所（2022年11月1日 評価者として参加）
- ・島根原子力発電所（2022年11月15日 評価者として参加）
- ・伊方原子力発電所（2022年12月9日 評価者として参加）

### ● 指標 1 1 : 訓練結果の自己評価・分析

—

#### <資料>

14. 社内訓練等からの改善活動実施状況

別紙4 参照

### ● 備考：訓練参加率

- 発電所参加予定人数（うち、コントローラ人数）を確認する
- 即応センター参加予定人数（うち、コントローラ人数）を確認する
- リエゾン予定人数を確認する
- 評価者予定人数を確認する

#### <説明>

○発電所参加予定人数（うち、コントローラ人数）

395名（うち、コントローラ・評価者 29名）

○即応センター参加予定人数（うち、コントローラ人数）

147名（うち、コントローラ・評価者 14名）

○リエゾン予定人数

7名（うち、ERCプラント班リエゾン4名、ERC広報班リエゾン2名、コントローラ兼評価者1名）

● **備考：中期計画の見直し**

- 見直し状況、見直し内容、今年度訓練実施計画の位置づけを確認する
  - 見直し後の中期計画を確認する
  - 前回訓練の訓練報告書提出以降から次年度訓練までの対応実績・スケジュール（作業フローなど）について、以下のPDCAの観点で概要を確認する
- 【観点】** 前回訓練の訓練報告書提出から今回訓練までと今回の訓練を踏まえた
- [C] 及び [A]、中期計画及び原子力防災業務計画への反映 [P] の時期
  - [C] 訓練報告書のとりまとめ時期
  - [A] 対策を講じる時期
  - －具体的な対策の検討、マニュアル等へ反映、周知・教育/訓練など（昨年度の訓練実施結果報告書に掲げた各課題についての対応内容、スケジュールがわかるように記載すること）
  - －原子力事業者防災業務計画への反映の検討事項・時期（定期見直し含む）
  - [P] 中期計画等の見直し事項・時期、次年度訓練計画立案時期
- 前回訓練実施後の面談時に説明したPDCA計画を確認する

<資料>

15. 2022年度総合訓練に係る対応スケジュール

別紙5参照

● **備考：シナリオ非開示型訓練の実施状況**

- 開示する範囲、程度（一部開示の場合、誰に／何を開示するのか具体的に記載）及びその設定理由を確認する

<説明>

○コントローラ・評価者以外はシナリオ非開示とする。

● **備考：訓練統制**

- パラメータ設定の誤りや訓練コントローラの不適切な介入（条件付与）等の訓練コントローラの不備により、参加者において混乱が生じるなど、訓練統制上のトラブルが起きていないか確認する。

<説明>

・訓練シナリオについては、事前に通して流して機器の動作・パラメータをチェック

し、意図しない動作が無いことを確認する。

- ・万が一、シミュレーターの予期しない動き、訓練の進行を大きく妨げるような想定外の運転操作の判断を本部が決定した際等には、訓練総括者の判断により、発電所、本店、ERC、他関係箇所コントローラに連絡の上、訓練進行を一時中断し、方向の修正を行う。

## ● 事業者と ERC の訓練コントローラ間の調整事項

- ERC 広報班との連動の有無
- TV 会議接続先（即応センター、OFC、緊対所）
- リエゾンの人数（プラント・広報）、入館時刻、訓練参加タイミング
- 訓練終了のタイミング、その後の振り返りの要否
- ERSS 使用に係る当庁情報システム室との調整状況
- 事前通信確認実施の要否
- 即応センターコントローラの所属、氏名、連絡先
- ERC 対応者の職位、氏名
- 訓練時、メールを利用した ERC プラント班への資料提供の実施の有無

<説明>

### ○ERC 広報班との連動の有無

ERC 広報班リエゾンは 2 名で、浜岡原子力発電所のプレス文や QA について、ERC 広報班へ連携する訓練を実施したい。ERC 広報班との連動はあるか、確認させていただきたい。

### ○ERC 医療班との連動の有無

ERC 医療班への情報共有は連動して実施するか、確認させていただきたい。

### ○TV 会議接続先（即応センター、OFC、緊急時対策所）

統合原子力防災ネットワークの TV 会議接続先は、「中部即応センター1」を通常接続、「中部即応センター2」を画面非表示、傍聴接続していただきたい。

（「中部即応センター2」は視察者・評価者用に用意する会議室で ERC 対応を放映するため、接続をお願いしたい。）

### ○リエゾンの人数（プラント・広報）、入館時刻、訓練参加タイミング

ERC プラント班リエゾン 4 名、ERC 広報班リエゾン 2 名、コントローラ兼評価者 1 名の参加を予定している。入館時刻は 13:00、訓練参加タイミングは 13:25（AL 該当事象発生から約 15 分）とする。

### ○訓練終了のタイミング、その後の振り返りの要否

訓練の進捗に合わせて、即応センターコントローラが、ERC コントローラと調整

の上、統合原子力防災ネットワークの TV 会議を通じて訓練終了の発話を行う。その後、ERC との訓練の振り返りをお願いしたい。

○ERSS 使用に係る規制庁情報システム室との調整状況

ERSS を使用しないため、調整は不要である。

○事前通信確認実施の要否

実施を希望するため、改めて日程調整させていただきたい。また、事前通信確認の際に ERC 備付資料の配備も実施させていただきたい。

○即応センターコントローラの所属、氏名、連絡先

原子力部 防災・核物質防護 G 課長  
主任



○ERC 対応者の職位、氏名

原子力部 防災・核物質防護 G  
安全技術 G



マスキング箇所  
(理由：個人情報のため非開示)

○訓練時、メールを利用した ERC プラント班への資料提供の実施の有無

予定していない。

以上

2022年度 浜岡原子力発電所  
総合訓練 実施計画書

2022年12月

中部電力株式会社



## 1. 訓練中長期計画上の位置付け

「訓練中長期計画」は、緊急時対応におけるエクセレンス（目指す姿）を設定し、エクセレンスと現状のギャップを抽出し、その結果から組織全体における達成目標を年度ごとに定めている。2021年度達成目標である平日昼間帯における4号機運転、他号機停止状態での複数号機発災時対応のパフォーマンス目標に対して一部課題が見られたことから中長期計画の見直しを行い設定した「意思決定及び情報連絡を迅速に実施できる仕組みの有効性の検証並びに確実な対応の実施」を本訓練において検証する。

年度	達成目標
2021年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模損壊時の初動において対応できる仕組みの有効性を検証（プロセス目標）</li> <li>・4号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時における確実な対応の実施（パフォーマンス目標）</li> <li>・テロ事案において確実な対応の実施（パフォーマンス目標）</li> </ul>
2022年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日、夜間における4号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時に、対応できる仕組みの有効性を検証（プロセス目標）</li> <li>・意思決定及び情報連絡を迅速に実施できる仕組みの有効性の検証並びに確実な対応の実施（プロセス／パフォーマンス目標）</li> </ul>
2023年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模損壊時の初動において確実な事故収束対応をできる仕組みの有効性を検証（プロセス目標）</li> <li>・平日・昼間帯における3，4号運転状態での複数号機同時発災時に対応できる仕組みの有効性の検証（プロセス目標）</li> </ul>

達成目標は【プロセス目標<sup>※1</sup>／パフォーマンス目標<sup>※2</sup>】に分類して定めている。

※1 想定する事象において、体制、計画、設備が整備されており、所定の機能を発揮し得ることを確認した状態で達成される目標

※2 想定する事象において、プロセスどおりに活動することで要員が所定の機能を発揮し得る能力を有することを確認した状態で達成される目標

## 2. 昨年度訓練の課題・改善事項

2021年度実施した総合訓練において抽出された課題に対する改善事項を検証できる訓練計画とする。改善の具体的な実施内容は、添付資料1参照。

## 3. 訓練目的

「1. 訓練中長期計画上の位置付け」及び「2. 昨年度訓練の課題・改善事項」を基に、総合訓練の訓練目的を以下のとおり設定する。訓練目的を検証するための訓練内容及び主な検証項目は、添付資料2参照。

訓練目的
①意思決定及び情報連絡を迅速に実施できる仕組みの有効性の検証並びに確実な対応の検証
②2021年度の訓練で抽出された課題に対する取り組みの有効性を検証

#### 4. 訓練日時

2023年2月10日(火) 13:10~16:30頃

訓練終了後、振り返り会実施。

#### 5. 想定事象、訓練内容

##### (1) プラント運転状態

1号機：廃止措置中（使用済燃料・新燃料搬出済み）

2号機：廃止措置中（使用済燃料・新燃料搬出済み）

3号機：停止中（新規制基準適合性申請に係る審査が完了しておらず、燃料集合体は全て使用済燃料プールで保管）

4号機：運転中（新規制基準適合性申請に係る対策工事及び可搬型設備の導入が全て完了した状態）

5号機：停止中（新規制基準適合性申請に係る審査が完了しておらず、燃料集合体は全て使用済燃料プールで保管）

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

##### (2) 事象想定



##### (3) スキップの有無等

事象の早回し、事象のスキップは実施しない。

##### (4) 安全パラメータ伝送システム（以下、SPDS という。）の使用

###### ○発電所—即応センター間の SPDS

4号機は訓練シミュレータと連動した訓練を実施するため、当該訓練シミュレータから出力された SPDS データを用いて訓練を行う。

###### ○即応センター—ERC 間の SPDS

ERC リエゾンが ERC に持ち込む PC を通じて、即応センターから ERC へ訓練シミュレータの SPDS 画面を伝送表示する。

原子力規制庁から ERC 対応ブース発話者又は ERC リエゾンへ要求があれば、ERC 対応ブースの要員が SPDS 表示端末を操作することで伝送表示している画面を切り替えることが可能である。

## 6. 訓練項目

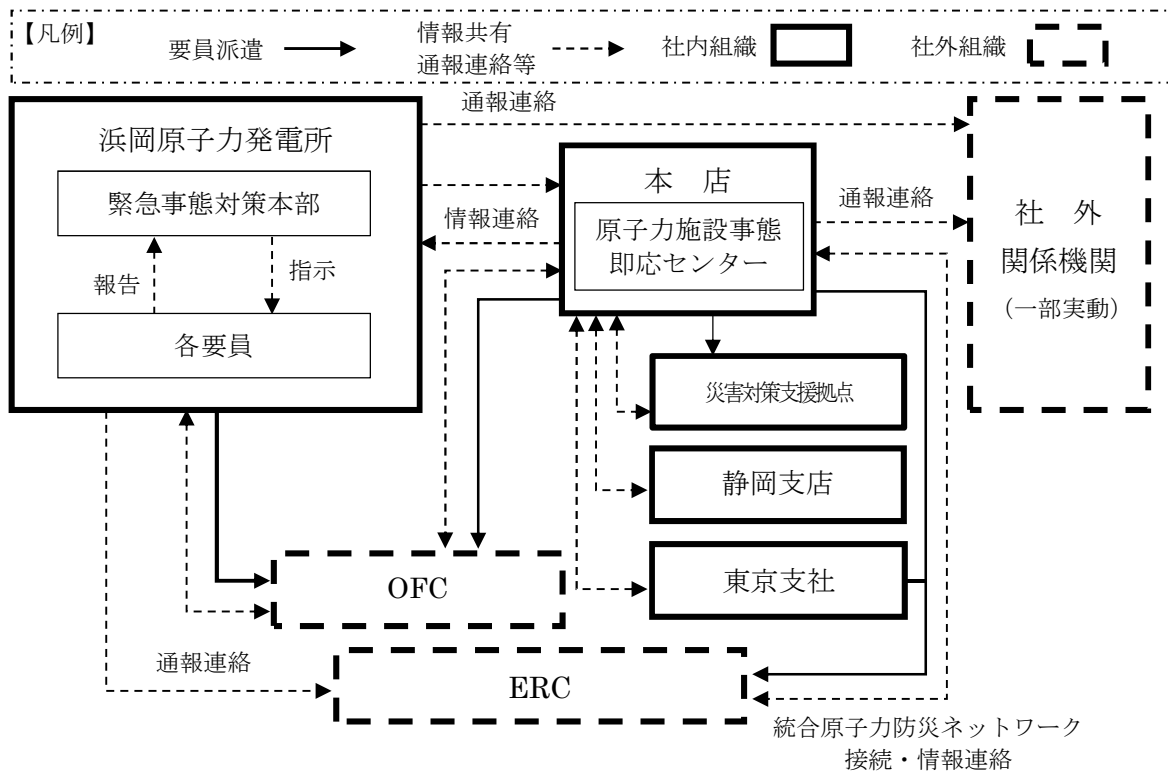
訓練項目の設定については、「3. 訓練目的」及び「浜岡原子力発電所原子力事業者防災業務計画」に記載する『原子力災害発生時にあらかじめ定められた機能』を検証できる訓練項目を設定する。

実施箇所	訓練項目	訓練概要
発電所	重大事故等対応訓練	添付資料 2 参照
	通報訓練	
	避難誘導訓練	
	原子力災害医療訓練	
	モニタリング訓練	
原子力部 (本店)	重大事故等対応訓練（本部運営訓練）	
	原子力事業所災害対策支援拠点訓練 <sup>※</sup>	
	原子力緊急事態支援組織連携訓練 <sup>※</sup>	
	記者会見対応訓練 <sup>※</sup>	
	原子力事業者支援連携訓練 <sup>※</sup>	
	オフサイトセンター連携訓練 <sup>※</sup>	

※ 「浜岡原子力発電所原子力事業者防災業務計画」に記載している「その他必要と認める訓練」として訓練項目を設定する。

## 7. 訓練実施体制・レイアウト

### (1) 実施体制



(2) 本店即応センターレイアウト図

別紙1-4参照

(3) 発電所緊急時対策所レイアウト図

別紙1-5参照

(4) ERC 対応ブース配置図、役割分担

別紙1-6参照

## 8. 評価方法

発電所及び本店は、以下のとおり評価を実施する。

### (1) 訓練観察による評価

訓練評価チェックシートを用いて訓練観察を実施し、訓練後に活動を評価する。

### (2) 第三者による評価

- ・他の原子力事業者及びJANSI（技術支援部）に評価者の派遣を依頼し、活動を第三者視点で評価する。（新型コロナウイルス感染防止のため、訓練を録画した映像・音声データを基にした観察への変更も考慮）
- ・JANSI（人材育成部）に評価者の派遣を依頼し、ノンテクニカルスキルの観点からレビューする。

### (3) 振り返り会

訓練参加者及び訓練事務局にて振り返り会を実施し、改善事項を抽出する。

## 9. 参加予定人数

浜岡原子力発電所参加予定人数

395名（うち、コントローラ・評価者 29名）

本店即応センター参加予定人数

147名（うち、コントローラ・評価者 14名）

リエゾン予定人数

7名（うち、コントローラ・評価者 1名）

## 10. 訓練の中止・延期等の判断

以下の条件を基に訓練事務局で訓練の中止又は延期を検討し、本店本部長又は発電所本部長の最終判断を以って中止又は延期する。

- （1）当社供給区域内で大規模な自然災害（地震、津波、暴風、竜巻、火山の噴火など）の発生又はそのおそれがある場合で、社内の緊急時体制を構築する必要があるとき。
- （2）原子力発電所のトラブル等により、非常体制を発令する必要があるとき。
- （3）訓練中に人身災害が発生したとき。
- （4）新型コロナウイルス感染拡大状況等を勘案し、事務局が必要と判断したとき。
- （5）その他、訓練事務局が必要と判断したとき。

以 上

前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定

問題点・課題	原因	改善策	確認方法
(1) 発電所緊急事態対策本部			
a. 重大な局面シート(COP3)の作成遅れ及び記載不備			
<p>問題： 「重大な局面シート（COP3）」のERCへの戦略提示の遅れや記載内容の不備があった。</p> <p>課題①： 「重大な局面シート（COP3）」の作成が遅かった。</p> <p>課題②： 「重大な局面シート（COP3）」の記載内容について、最終ヒートシンク戦略にフィルタベントの記載がなかった。</p>	<p>原因①-1： 当社の「重大な局面シート（COP3）」作成開始タイミングの運用が注水・除熱喪失以降であり、対外的な情報連携を行うには遅かった。</p> <p>原因①-2： 社内マニュアルの「重大な局面シート（COP3）」の作成開始タイミングについての記載が、複数解釈し得る記載であった。</p> <p>原因②： 「重大な局面シート（COP3）」の最終ヒートシンク戦略は、フィルタベントを含めた記載とすることをルール化していなかった。</p>	<p>対策①-1, ①-2： 「重大な局面シート（COP3）」について、他電力の良好事例を参考にし、作成開始タイミングを早め、社内マニュアルに反映した。また、作成開始タイミングを明確にしたうえで、社内訓練を実施し、運用の定着を図っている。</p> <p>対策②： 「重大な局面シート（COP3）」の最終ヒートシンク戦略は、フィルタベントを含めた記載とすることを社内マニュアルに明記したうえで、社内訓練を実施し、運用の定着を図っている。</p>	<p>総合訓練において、評価者が本部席及び情報戦略班の活動を観察し、社内マニュアルに基づいた作成タイミングで重大な局面シート（COP3）作成ができていないこと、及び、作成された「重大な局面シート（COP3）」について、記載内容に不備が無いことを評価チェックシートに基づき確認する。</p>
(2) 本店緊急事態対策本部			
a. 本店から発電所への問い合わせ対応不調			
<p>問題： 本店と発電所間の問い合わせラインが円滑に機能しない場面があった。</p> <p>課題①： ERC対応において、情報戦略班は、4号機補給水ポンプ(C)について本店から問い合わせを受けたものに関し</p>	<p>原因①, ②-1： ERC対応Gの担当者が問い合わせや要望の意図や重要性を十分に認識しておらず、情報戦略班にそれらを伝えることが出来なかった。</p> <p>原因②-2： 本店ERC対応Gから本店技術支援G、</p>	<p>対策①, ②-1： ERC対応G情報収集担当に対して他電力のERC対応の視察をさせる等、他電力へのERC対応視察により問い合わせラインの重要性や求められるレベル感を理解させたうえで、社内訓練で力量向上を図っている。</p> <p>対策②-2： 本店ERC対応Gから本店技術支援G、</p>	<p>総合訓練において、評価者がERC対応Gの活動を観察し、情報連携が仕組みに則って円滑に実施されているか、評価チェックシートに基づき確認する。</p>

問題点・課題	原因	改善策	確認方法
<p>て、回答に時間を要した。</p> <p>課題②：</p> <p>技術支援 G 及び ERC 対応 G は、「重大な局面シート（COP3）」の作成要望や記載の修正要望を発電所へ十分に伝えられない場面があった。</p>	<p>又は情報戦略班に問い合わせを行う際、予め決めていた発話ルールが徹底されていなかった。</p>	<p>問い合わせ内容・緊急度を明確にするための発話例、内容に応じた問い合わせ先の明確化等、情報連携に関するルールを見直し、再教育を行い、社内訓練で定着を図っている。</p>	
<p>b. ERC 対応スピーカー説明方法の課題</p>			
<p>問題：</p> <p>ERC スピーカーは、手書きのメモや COP を使用し、聞き手を意識した簡潔な説明が出来ていない場面があった。</p> <p>課題①：</p> <p>ERC 対応において、繁忙時に端的な情報発信が出来なかった場面、口頭のみで情報を伝えている場面、原災法第 10 条該当事象発生以降も暫くの間、電源や設備の状況を COP 等で総括的に説明できていなかった場面等、聞き手を意識した簡潔な説明が出来ていない場面があった。</p>	<p>原因①-1：</p> <p>社内訓練や教育資料では緻密・専門的な情報を伝えることに重点を置いていた。</p> <p>原因①-2：</p> <p>ERC 対応 G は、事象進展が早い中での情報共有手段としてメモや COP の使用の不足があった。</p>	<p>対策①-1-1：</p> <p>他社を含め規制庁連携訓練における ERC の復唱内容等を分析し、繁忙な状況で伝えるべき要点をまとめて、マニュアルに反映し、教育実施の上、社内訓練にて重点的に観察・評価し、定着を図っている。</p> <p>対策①-1-2，①-2-1：</p> <p>繁忙な場面においても ERC 対応 G に結論（要点）を伝える手書きメモを作る運用を徹底するように教育する。書画装置の切り替えは、相手の様子に注意を払って行うよう意識づけし、社内訓練でこれらの点について重点的に観察・評価し、定着を図っている。</p> <p>対策①-2-2：</p> <p>原災法第 10 条・15 条該当事象発生時は、認定会議の前後に COP を用いて設備状態の総括的な説明を行うことを社内マニュアルで明確化し、社内訓練にて重点的に観察・評価し、定着を図っている。</p>	<p>総合訓練において、評価者が ERC 対応 G の活動を観察し、EAL、プラント状況、対応戦略等の必要な情報を発話ポイント等に基づきわかりやすく説明できていることを、評価チェックシートに基づき確認する。</p>

## 1. 発電所各訓練項目の内容

訓練項目	訓練内容	主な検証項目	備考
重大事故等対応訓練	○4号運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時における情報収集・整理	○本部長は、整理したプラント情報を基に、新規制基準適合炉及び未適合炉における EAL 該当事象について正確かつ迅速な判断ができること ○本部席及び情報戦略班は、複数個所の火災事象等の複雑なプラント状況下においても、SPDS、WebEOC、現場からの報告等の確認により、正確にプラント状況を把握できること	—
	○4号運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時における事故状況判断	○情報戦略班は、プラントの情報を取りまとめ、社内マニュアルに基づきプラント状態管理シートの作成、COP1,2の発行及びWebEOCへの投稿ができること ○情報戦略班は、プラント挙動（原子炉、格納容器、燃料プール等）を分析し、事象進展予測ができること ○情報戦略班は、中央制御室からの情報や事象進展予測の結果を基に、重大な局面シート（COP3）を正確に作成し、適切なタイミングで発行ができること【昨年度訓練課題(1)a】 ○本部席は、重大な局面シート（COP3）を活用し、迅速に戦略を決定できること	訓練目的①②
	○4号運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時における情報連絡	○緊急事態対策要員は、COP、WebEOC等を活用し、班内にプラント情報を情報共有できること ○本部席は、戦略ブリーフィング時にCOP等を活用し、本部内で正確なプラント情報を共有し、認識統一できること ○情報戦略班及び地域・広報班は、発電所内、本店、ERC等に対して、FAX及びWebEOC等を活用し、迅速に情報連絡できること ○情報戦略班及び復旧班は本店からの問い合わせに対して、迅速に情報提供できること	訓練目的①
通報訓練	○原災法第10条通報文及び原災法第25条報告の作成、状況に応じた通信手段を用いた通報連絡（FAX送信及び着信確認）	○本部席の情報連絡担当者及び情報戦略班は、原災法第10条、15条該当判断から15分以内に通報文の作成、関係個所への通報連絡が実施できること ○本部席の情報連絡担当者及び情報戦略班は、原災法第25条報告を定期的（1時間毎を目途）に実施できること	—
避難誘導訓練	○原災法第10条事象発生後、発電所敷地内からの避難者への避難指示、避難誘導	○支援班は、所内一斉放送を使用し、発電所構内に避難指示ができること ○安否確認救護班は、発電所構内の所員の避難誘導を遅滞なく開始できること	—
原子力災害医療訓練	○管理区域から傷病者の搬出、汚染検査、応急処置	○安否確認救護班と放射線管理班は、管理区域内で発生したけが人の汚染状況の把握、処置及び医療機関への搬送準備ができること	—
モニタリング訓練	○可搬型モニタリングポスト設置、測定	○放射線管理班は、可搬型モニタリングポストを設置し、所内モニタリングの結果を本部に共有できること	—



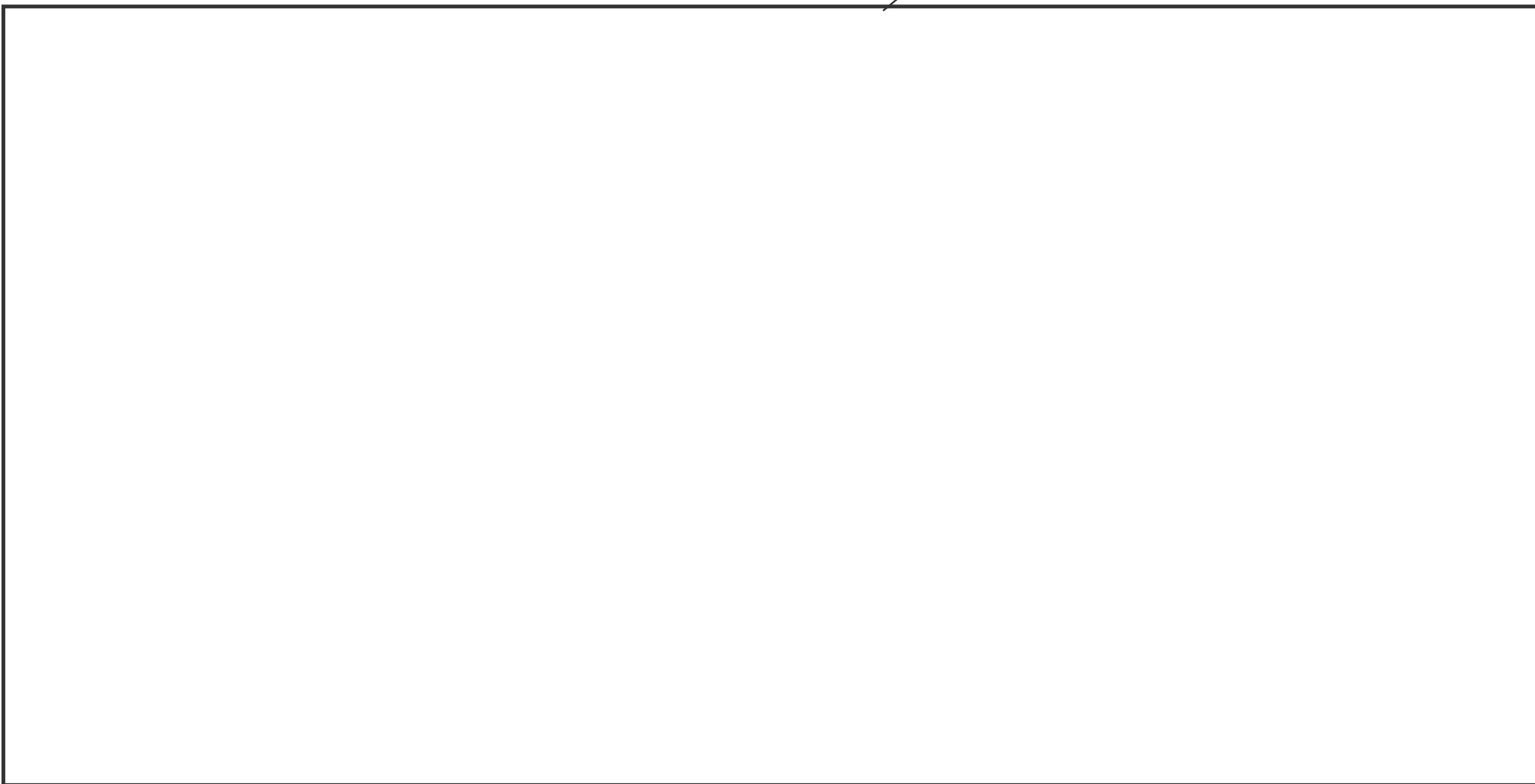
2. 原子力部（本店）各訓練項目の内容

訓練項目	訓練内容	主な検証項目	備考
重大事故等対応訓練 (本部運営訓練)	○平日昼間における本部立ち上げ及び発電所支援体制の構築	○本部長は、社内規定に従い、体制発令及び体制に応じた要員招集が実施できること ○本部運営 G は、新たに定めたマニュアルに従い、速やかに社内 TV 会議システムの接続ができること ○各機能班は、要員参集状況ツールを活用し、要員の参集状況を把握し報告できること ○各機能班は、必要な連絡先に事象発生連絡が実施できること	—
	○4号機運転、他号機停止状態での複数号機同時発災時の情報共有	○各機能班は、COP や WebEOC 等の情報共有ツールを活用し、各 G に必要な情報を収集できること ○本部運営 G は、必要な頻度で本部会議を開催し、本店内で必要な情報を情報共有できること	訓練目的①
	○ERC プラント班へ情報を提供	○ERC 対応 G は、COP、WebEOC、ホットライン等の活用により EAL、プラント状況、対応戦略等の必要な情報を収集できること【昨年度訓練課題(2)a】 ○ERC 対応 G は、COP を用いてプラント状況、対応戦略等の必要な情報を迅速に発信できること ○ERC 対応 G は、「ERC 対応に係る発話ポイント・発話例」に従い、情報をわかりやすく提供できること【昨年度訓練課題(2)b】	訓練目的①②
	○発電所支援の実施	○技術支援 G は、発電所のプラント状況把握 (EAL 判断を含む)、事象進展予測、対応戦略について適切に発電所を支援できること ○オンサイト計画・情報 G は、プラントメーカーに技術協力を要請し、情報連携体制が確立できること ○復旧支援 G は、プラントメーカーと必要に応じ、応急・復旧に関する情報連携が実施できること	訓練目的①
原子力事業所 災害対策支援拠点訓練	○支援拠点を立ち上げ、即応センターと情報共有	○災害対策支援拠点派遣 G は、支援拠点に通信機器を設置し、即応センター、その他拠点との連絡体制をスムーズに確立できること ○災害対策支援拠点派遣 G は、支援拠点に設営した通信機器により即応センターからの情報を収集・整理できること	—
原子力緊急事態 支援組織連携訓練	○原子力緊急事態支援組織（美浜原子力支援センター）への通報連絡及び支援要請を実施	○オンサイト計画・情報 G は、原子力緊急事態支援組織（美浜原子力支援センター）へ通報連絡及び支援要請ができること	—
記者会見対応訓練	○模擬記者会見の実施	○対外対応班は、「対外対応に係るマニュアル」に従い、模擬記者会見において誤解のない言葉の使い方で説明ができること ○対外対応班は、15 条差し込みプレスを滞りなく実施できること	—
	○ERC 広報班と連動したプレス対応の実施	○対外対応班は、ERC 広報班と連動したプレス対応ができること	—
	○模擬ホームページによる情報発信の実施	○対外対応班は、模擬ホームページによる情報発信ができること	—
原子力事業者 支援連携訓練	○事業者支援拠点を東西 2 拠点設置し、他の原子力事業者と連携して発電所の支援を実施	○オフサイト計画・情報 G は、「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」に基づき、幹事会社へ支援要請ができること ○オフサイト支援派遣 G は「原子力災害時における原子力事業者支援本部マニュアル」に従い、他の原子力事業者とのオンサイト及びオフサイトの支援に係る連携ができること	—
オフサイトセンター 連携訓練	○オフサイトセンターへの要員派遣及び到着後、即応センターとの連携体制の構築	○発電所 OFC 派遣班は、事業者ブースの立上げができること ○発電所及び本店 OFC 派遣班は、活動マニュアルに従い現地事故対策連絡会議（模擬）や合同対策協議会（模擬）に向けた資料の作成・提供ができること ○発電所及び本店 OFC 派遣班は、情報共有ツール（TV 会議等）を活用し、オフサイト計画・情報 G と情報共有できること	—

# 2022年度 総合訓練シナリオ

別紙 1 - 2 - 1

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)



## 別紙 1 - 2 - 2 指標の紐づけ・場面設定のねらい

---

# 指標の紐づけ

## 指標 6 シナリオの多様化・難度

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

## 場面設定のねらい

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)



マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

## 場面設定のねらい

別紙 1 - 2 - 2

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)



マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスクング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

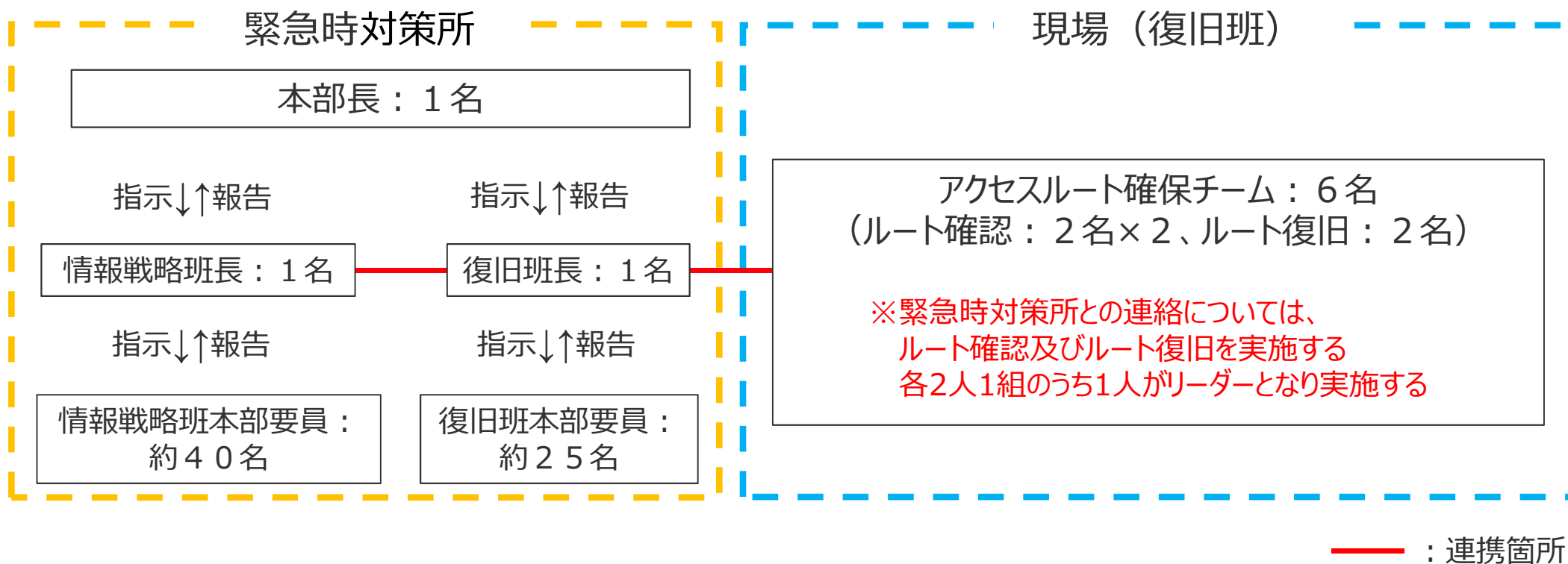
マスクング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)



### 3. 現場実動訓練の訓練体制

現場実動訓練における緊急時対策所－現場の体制は以下の通りとする。



## 4. 訓練内容・実施場所

### a. 実施場所

緊急 対策所、現場、訓練フィールド

### b. 訓練内容

作業工程	作業内容	実施場所
ステップ1	現場出動前ブリーフィング	緊急時対策所
ステップ2	保管場所、アクセスルートの確認	現場 (緊急時対策所～保管場所～4号機原子炉建屋)
ステップ3	アクセスルートの選択	緊急時対策所
ステップ4	アクセスルートの復旧	訓練フィールド
ステップ5	アクセスルート確保完了	緊急時対策所

### c. 訓練方法

#### 【ステップ1】 現場出動前ブリーフィング

・緊急時対策所にてブリーフィングを実施。

現場要員に対し、現場出動及び出動に必要な準備の指示を出す。







マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

マスキング箇所  
(理由：シナリオに関わるため非開示)

## 5. 評価方法

### □社内訓練評価者による評価

評価チェックシートを用いて訓練観察を実施し、訓練後に活動を評価する。

### □他電力による評価

評価チェックシートを用いて、第三者に活動を評価いただく。

※現地での評価を基本とするものの、新型コロナウイルスの感染状況に応じてDVDによる評価とすることもあり得る。

### □評価結果等の反映

評価結果、良好事例、気付き事項及び改善事項については、自社の改善計画のプロセスに取り込み、反映を実施する。必要に応じて改善事項を要素訓練観察チェックシートの評価項目に追加する。

2022年度総合訓練 訓練の流れ

マスキング箇所（本図全体）  
（理由：訓練シナリオのため非開示）

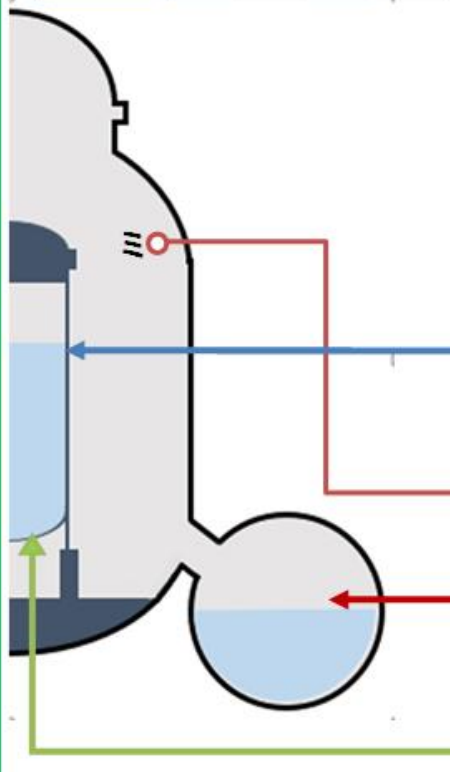
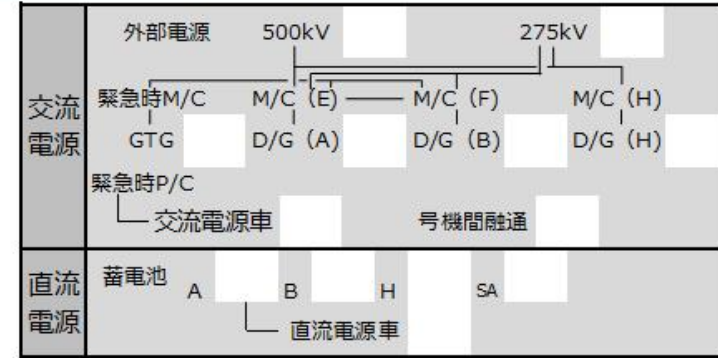


浜岡原子力発電所 4号機 機能別状況シート (COP 1)

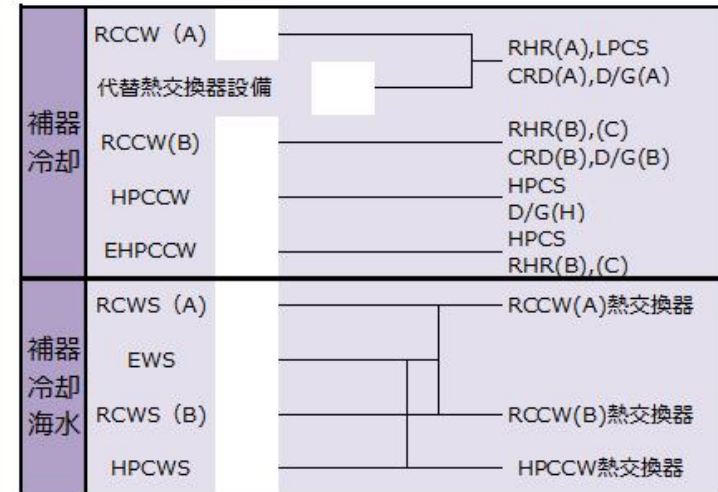
現在

停止機能	停止状態	SLC
減圧機能	SRV	
ヒートシンク	主復水器	S/P O
隔離状態	MSIV	PCIS

SFP 冷却	FPC			
	RHR A	B		RHR (B) (EHPCCW)
	FPMUW	可搬型注水設備		MUWC



炉心冷却	給復水系			
	高压	RCIC		
		HPCS		HPCS (EHPCCW)
	低压	RHR A	B	C
		LPCS		LPCI(EHPCCW)
		MUWC		非常用消火系
		DD-EMUW		MD-EMUW
		可搬型注水設備		3号MUWC
	減圧	高压窒素ガス供給系		代替高压窒素ガス供給系
	除熱	RHR	S/C冷却 A	B
		PCVスプレイ A	B	
代替除熱		DWC		CUW
代替スプレイ		MUWC		可搬型注水設備
				フィルタベント系
その他	CRD		SLC	



凡例	
○：運転中	▲：準備中
S：待機中	△：サポート系故障
■：未着手	x：使用不可



浜岡原子力発電所 4号機 設備状況シート (COP2)

現在

DB A設備				
機能	設備	使用可否	備考	
交流電源	外部電源	500kV 275kV		
	D/G	A		
		B H		
直流電源	蓄電池	A B H		
炉心冷却	高圧系	給復水系		
		RCIC		
		HPCS		
	低圧系	RHR (LPCI )	A B C	
		LPCS		
		3号MUWC		
	減圧系	SRV		
格納容器冷却	RHR (S/C冷却)	A B		
	RHR (格納容器スプレイ)	A B		
	DWC			
	CUW			
原子炉補機冷却	RCCW	A B		
	RCWS	A B		
	HPCCW HPCWS			
SFP冷却	FPC			
	RHR (SFP注水)	A B		
その他	CRD			
	SLC			

SA・自主設備							
機能	設備	使用可否	着手時刻	完了予定時刻	完了時刻 (実績)	参考所要時間	備考
交流電源	GTG						
	交流電源車 号機間融通						
直流電源	直流電源車						
	充電機 SA						
炉心冷却	高圧系						
	低圧系	HPCS (EHPCCW)					
		LPCI (EHPCCW)					
		MUWC					
		非常用消火系					
	DD-EMUW						
	MD-EMUW						
3号MUWC							
減圧系							
格納容器冷却	代替スプレイ						
	MUWC						
	代替熱交換器設備 可搬型注水設備						
原子炉補機冷却	フィルタベント系						
	EHPCCW						
SFP冷却	EWS						
	FPMUW						
	MUWC						
	RHR(B) (EHPCCW)						
	可搬型注水設備						

使用可否：  
 ○：運転中  
 □：待機中  
 ■：未着手  
 ▲：準備中  
 △：サポート系故障  
 ×：使用不可

SRV：  
 制御可  
 制御不可  
 緊急停止  
 無し

対策名	着手時刻	完了予定時刻	完了時刻 (実績)	備考
DB A設備復旧				

自由記述欄

浜岡原子力発電所 4号機 重大な局面シート (COP3)

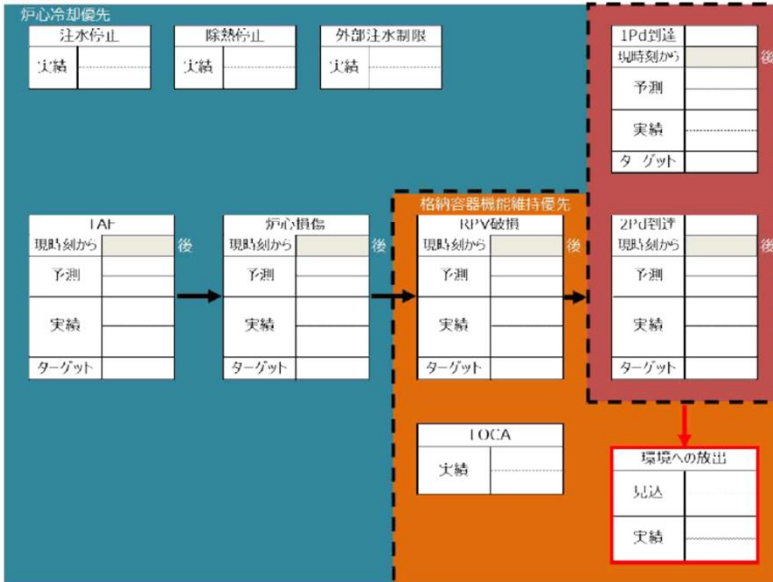
出力シート

<状況認識>

1. 現状

原子炉 (炉心冷却)			
格納容器 (除熱減圧)			
電源			
SFP (注水冷却)			

2. 進展予測



<意思決定>

3. 戦略立案

優先順位	注水系統	状況	準備完了 予定時間	完了時間 (実績)	注水 開始時間
		-			
		-			
		-			
戦略 補足					

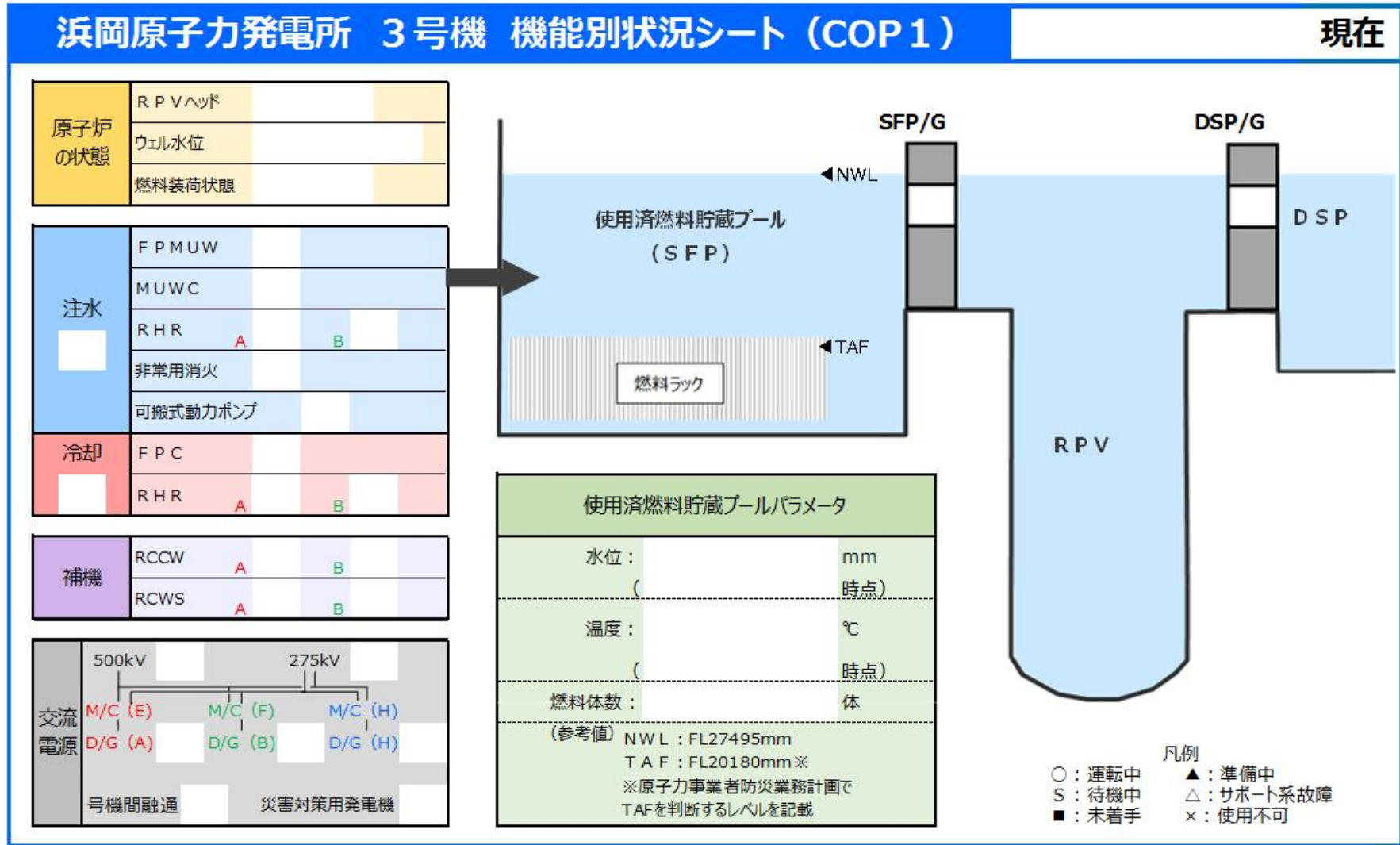
優先順位	除熱減圧系統	状況	準備完了 予定時間	完了時間 (実績)	除熱減圧 開始時間
		-			
		-			
		-			
戦略 補足					

優先順位	受電元	受電先	状況	準備完了 予定時間	完了時間 (実績)	受電 開始時間
		→	-			
		→	-			
		→	-			
戦略 補足						

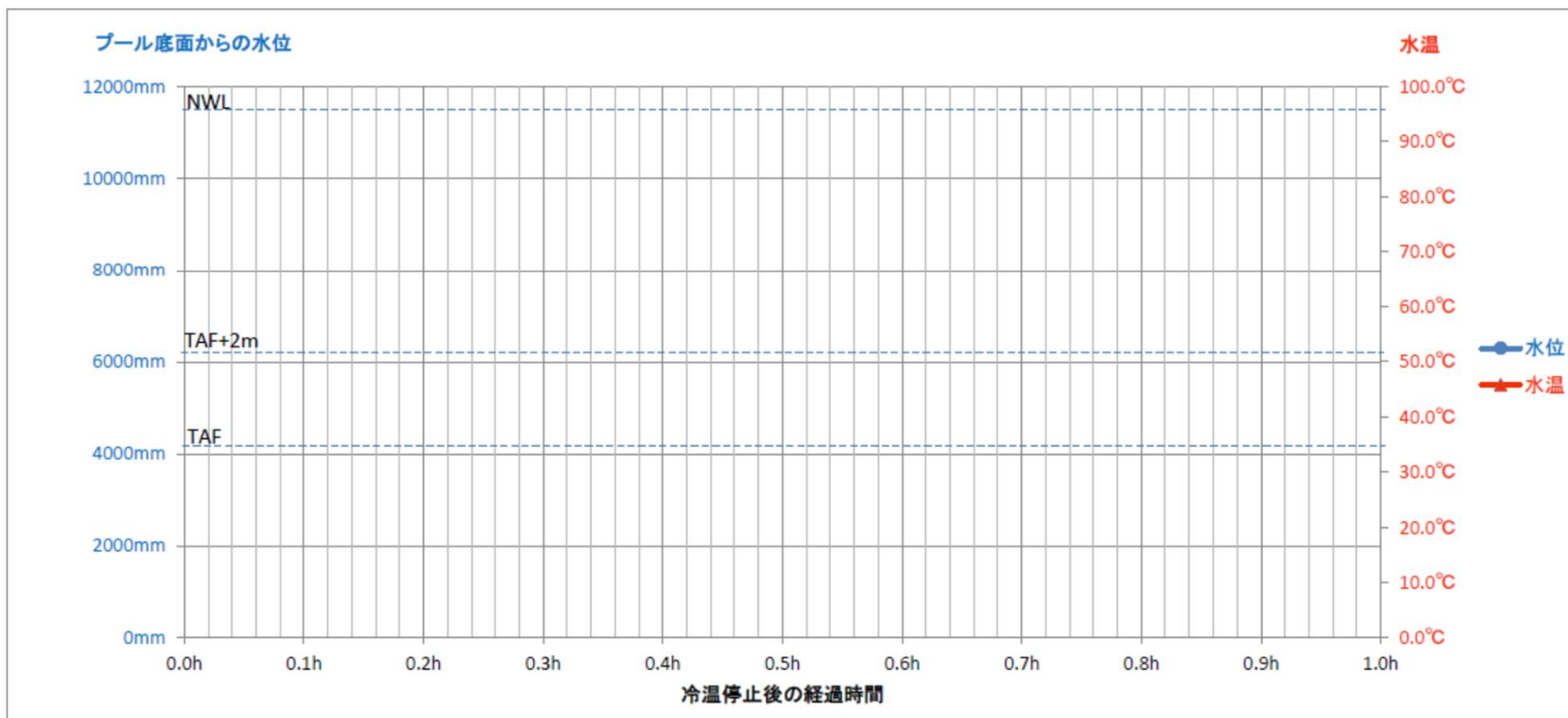
  

優先順位	SFP注水 冷却系統	状況	準備完了 予定時間	完了時間 (実績)	注水冷却 開始時間
		-			
		-			
		-			
戦略 補足					



浜岡原子力発電所3号機 SFP水位・温度トレンド

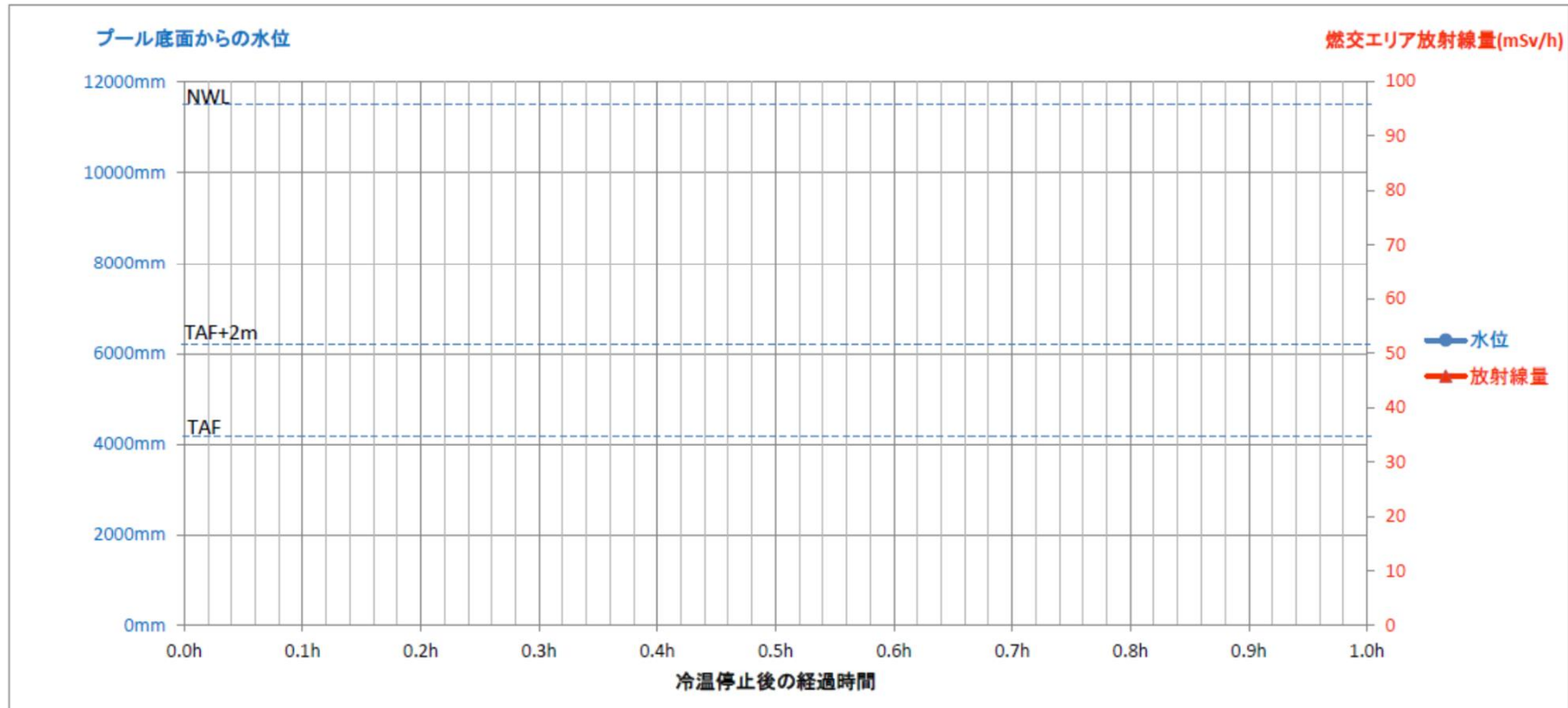
現在



FL(mm)	燃料ラック上端 基準水位	設定値
27530	+7.01m	HNL 高ANN
27495	6.975m	NWL
27330	6.810m	LWL 低ANN
20180	-0.340m	TAF
15980	-4.540m	プール底面

浜岡原子力発電所3号機 SFP水位・放射線量トレンド

現在



FL(mm)	燃料ラック上端 基準水位	設定値
27530	+7.01m	HNL 高ANN
27495	6.975m	NWL
27330	6.810m	LWL 低ANN
20180	-0.340m	TAF
15980	-4.540m	プール底面

浜岡原子力発電所 3号機 重大な局面シート (COP3)

現在

現状

戦略

使用済燃料貯蔵プール

状況			
	水位傾向		
冷却停止	水温65℃	ターゲット	TAF
		TAF+ 2m (SE31)	(GE31)
予測			
実績			
メモ			

目的				
	使用機器	電源	完了予測時間	評価
①				
②				
③				
メモ				



浜岡原子力発電所 5号機 機能別状況シート (COP 1)

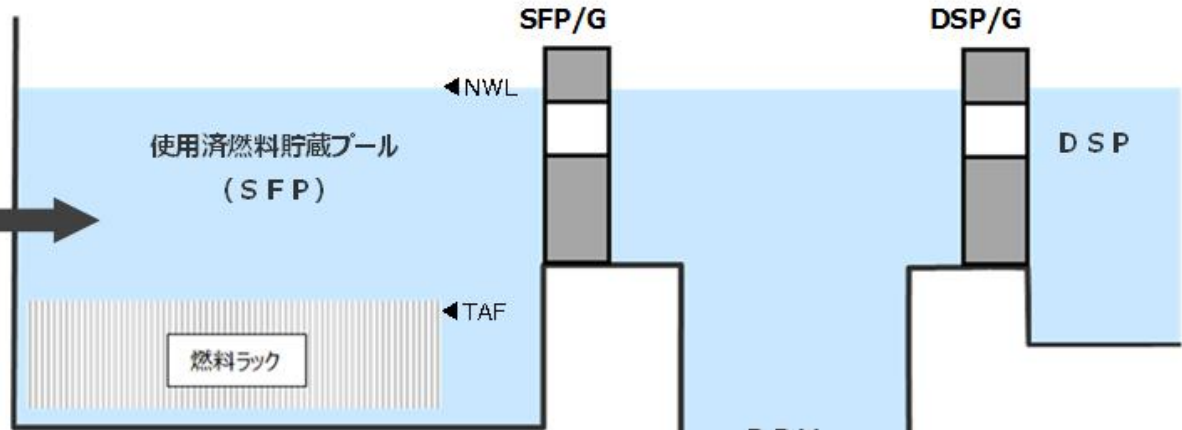
現在

原子炉 の状態	R P Vヘッド			
	ウェル水位			
	燃料装荷状態			

注水	S P C U			
	M U W C			
	R H R	A	B	C
	消火用水			
	可搬式動力ポンプ			
冷却	F P C			
	R H R	A	B	C

補機	R C C W	A	B	C
	R C W S	A	B	C

交流 電源	500kV			
	M/C (E)	M/C (F)	M/C (G)	
	D/G (A)	D/G (B)	D/G (C)	
	号機間融通			災害対策用発電機

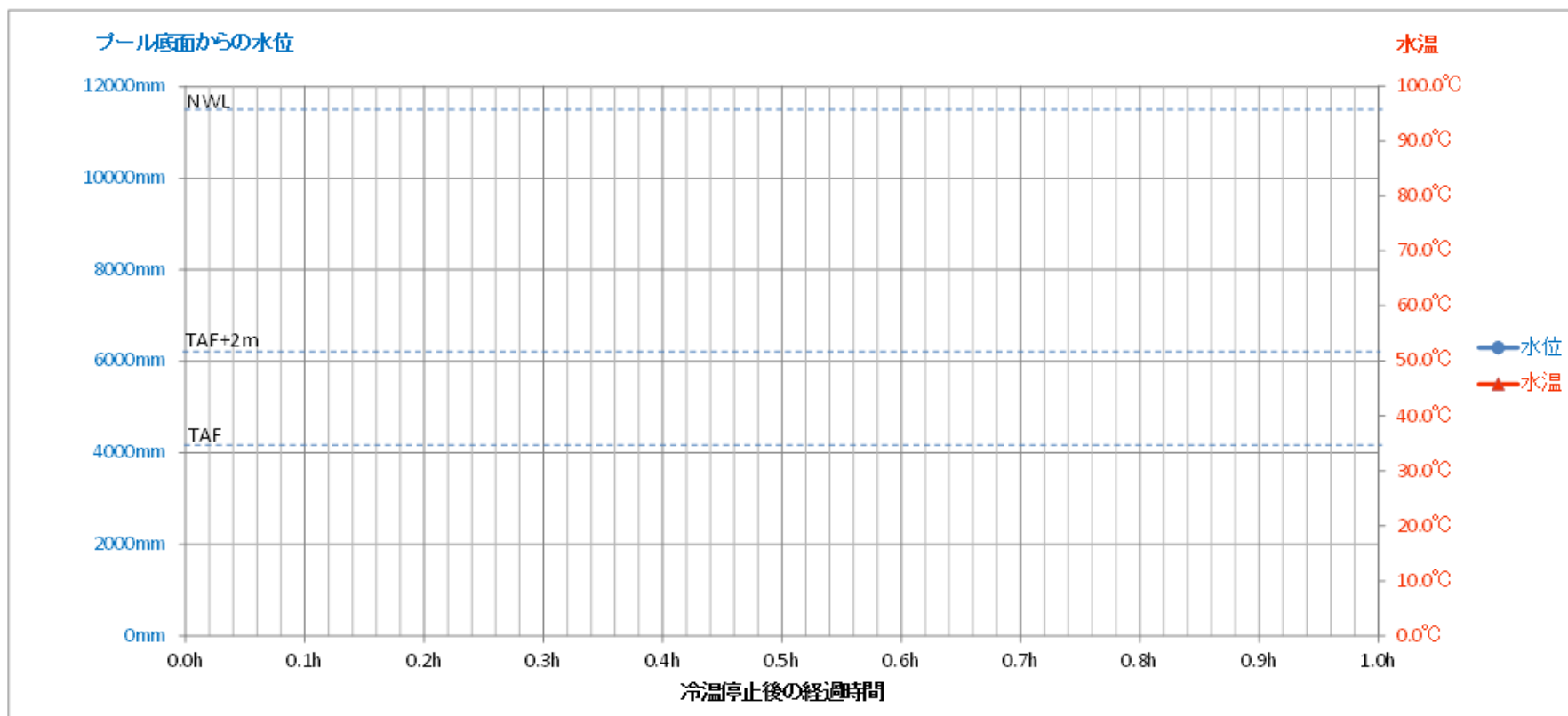


使用済燃料貯蔵プールパラメータ	
水位 :	mm
( )	時点
温度 :	℃
( )	時点
燃料体数 :	体
(参考値)	
N W L :	FL26595mm
T A F :	FL19280mm※
	※原子力事業者防災業務計画で
	TAFを判断するレベルを記載

- 凡例
- : 運転中
  - △ : サポート系故障
  - : 未着手
  - ▲ : 準備中
  - × : 使用不可

浜岡原子力発電所5号機 SFP水位・温度トレンド

現在

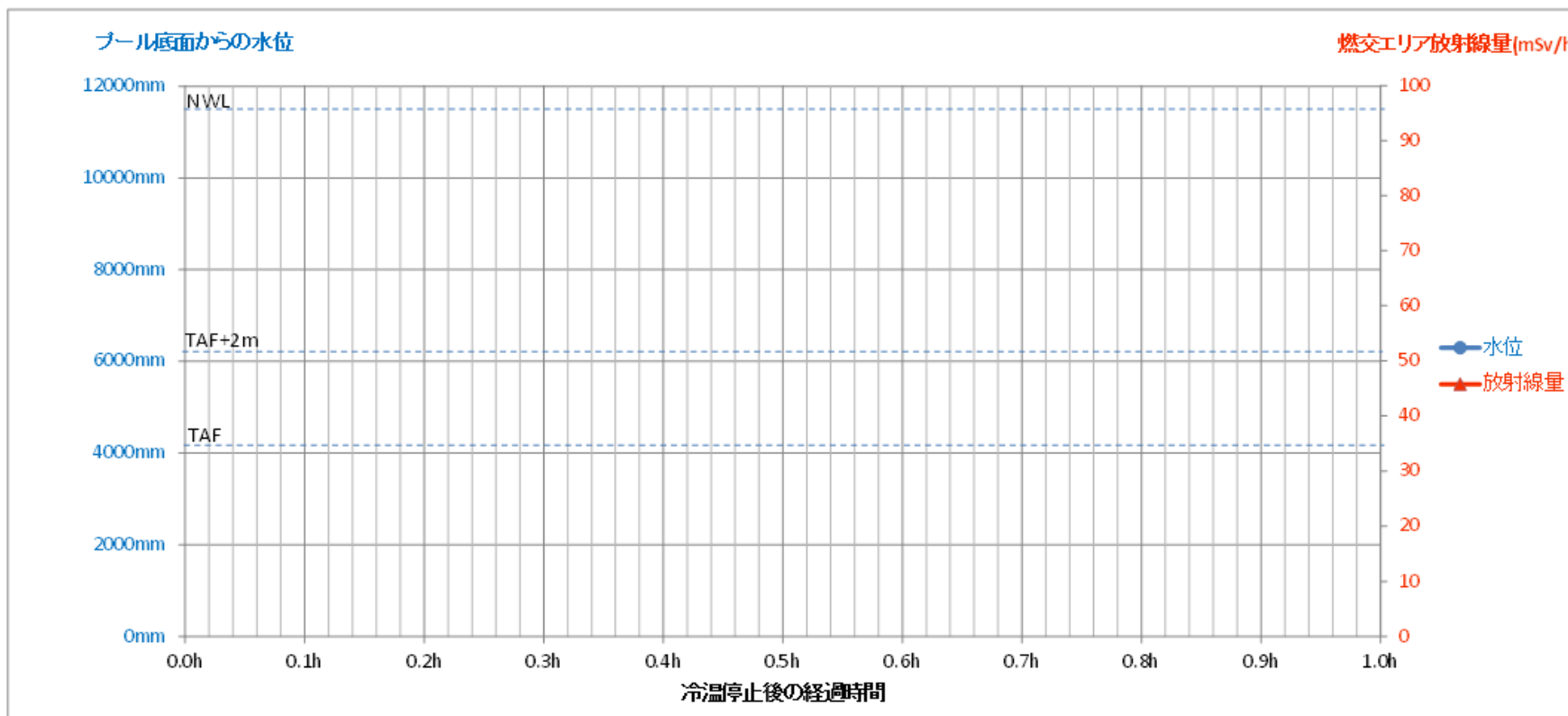


FL(mm)	燃料ファック上端 基準水位	設定値
26630	+7.01m	HWL 高ANN
26595	6.975m	NWL
26433	6.813m	LWL 低ANN
19280	-0.340m	TAF
15080	-4.540m	フック底面



浜岡原子力発電所5号機 SFP水位・放射線量トレンド

現在



FL(mm)	燃料マック上端 基準水位	設定値
26630	+7.01m	HVL 高ANN
26595	6.975m	NWL
26433	6.813m	LWL 低ANN
19280	-0.340m	TAF
15080	-4.540m	プール底面

浜岡原子力発電所 5号機 重大な局面シート (COP3)

現在

現状

戦略

使用済燃料貯蔵プール

状況	
水位傾向	

目的	
----	--

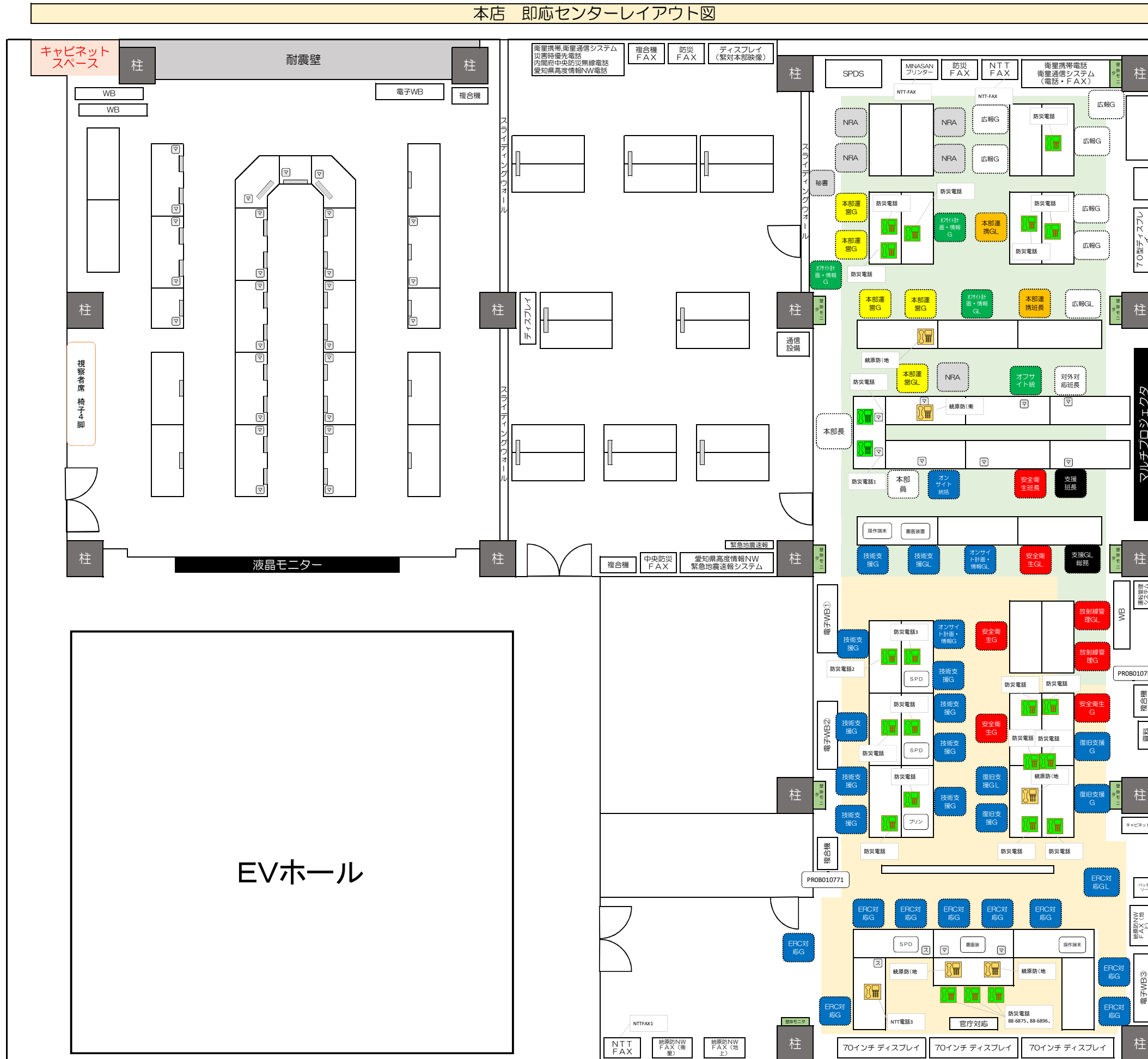
		ターゲット	
冷却停止	水温65℃	TAF + 2m (SE31)	TAF (GE31)
予測			
実績			

	使用機器	電源	完了予測時間	評価
①				
②				
③				

メモ	
----	--











メモ				
----	--	--	--	--

本店 即応センターレイアウト図



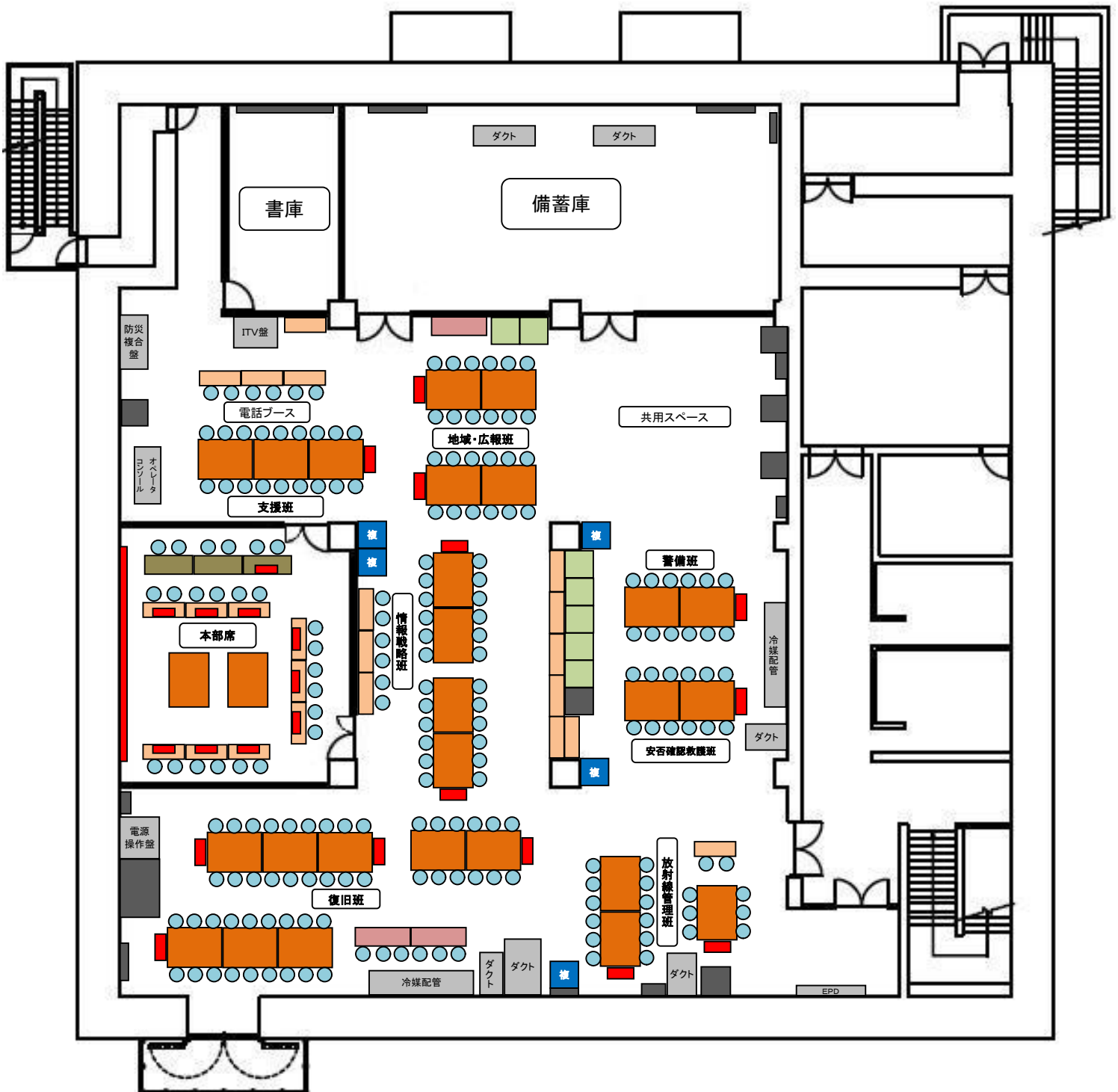
# 発電所 緊急時対策所レイアウト図

**凡例**

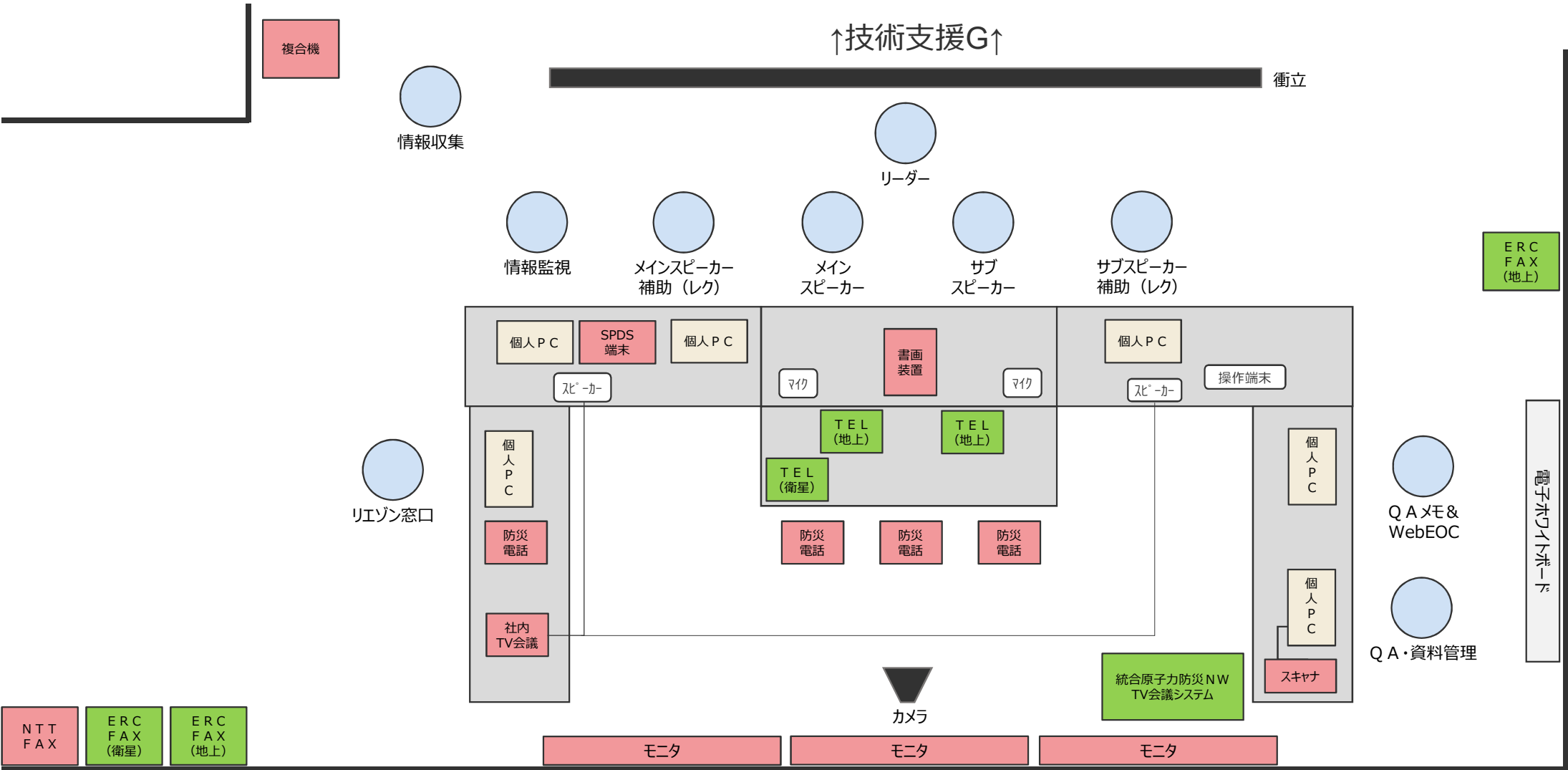
	机①(2000*1400)		FAX
	机②(1500*600)		複合機
	机③(1800*700)		AVシステムモニタ
	机④(2000*700)		制御盤、ダクト等
	イス		中継盤、電路BOX等

**参考**

机①: 28台  
 机②: 23台  
 机③: 3台  
 机④: 3台  
 イス: 200脚

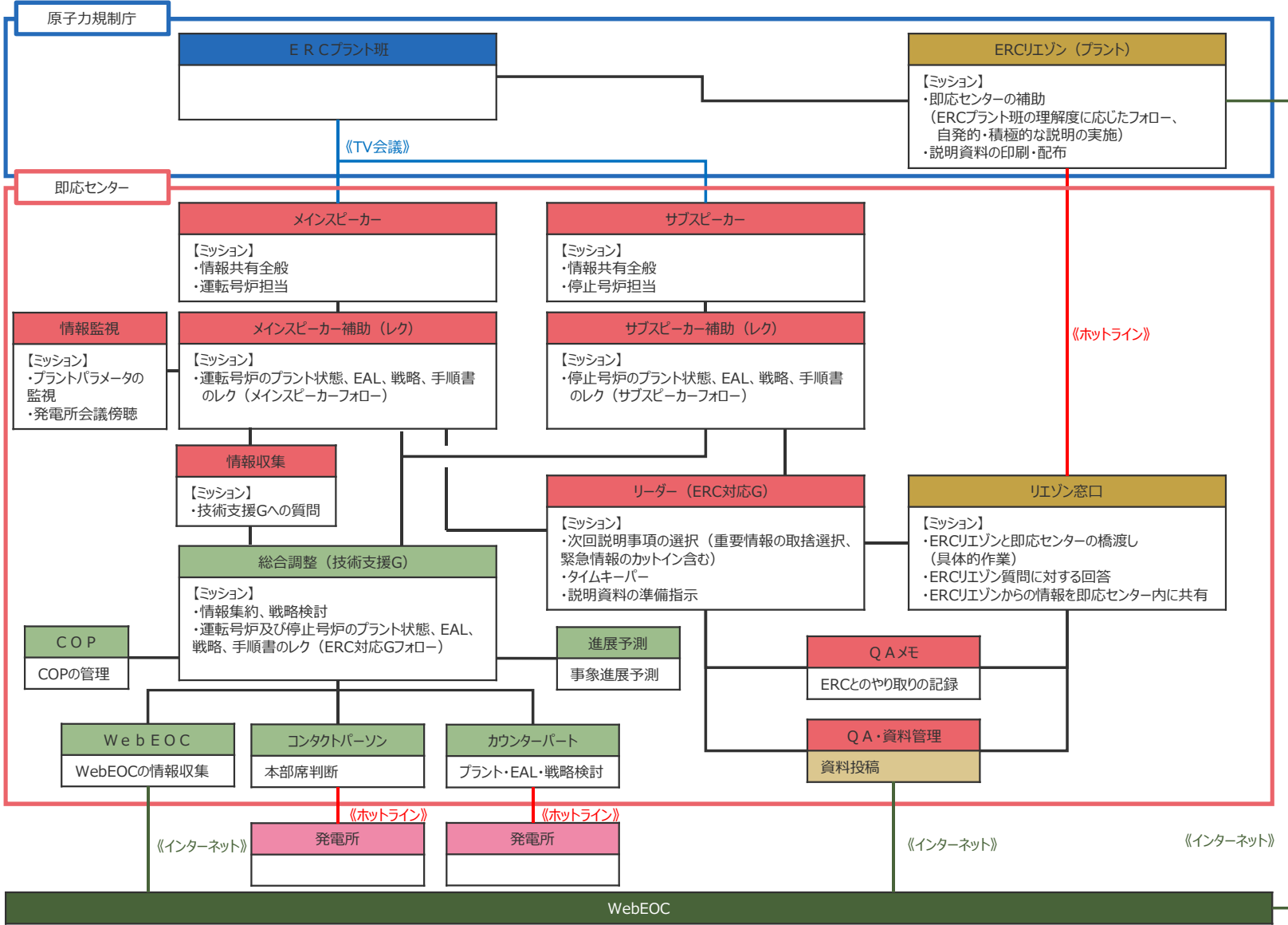


# ERC対応ブース 配置図



※ G内の情報共有のやり方について改善を図っており、配席が変更となる可能性がある

# ERC対応ブース 役割分担





# 浜岡原子力発電所 原子力災害時の対応資料集 【第 I 編 適合炉】

2023年2月（更新作業中）

大項目		小項目		ページ
1	設備全般	1-1	設備概要	I-1-1~3
		1-2	浜岡原子力発電所 全体配置図	I-1-4~5
		1-3	敷地高さ	I-1-6
		1-4	アクセスルート・資機材保管場所	I-1-7
		1-5	敷地境界付近のモニタリングポスト設置場所	I-1-8
		1-6	気象観測装置	I-1-9
2	機器配置図	2-1	4号炉 機器配置図	I-2-1~7
		2-2	4号炉 スクラム用地震計配置図	I-2-8
3	電源系統図	3-1	電力設備系統図, 発電設備の内訳	I-3-1
		3-2	外部電源系統図	I-3-2
		3-3	所内電源系統 単線結線図	I-3-3~4
		3-4	4号炉 所内単線結線図	I-3-5~6
		3-5	電源融通系統図	I-3-7
4	系統概要図	4-1	4号炉 系統概要図 (全体)	I-4-1~2
		4-2	4号炉 系統概要図 (炉心損傷防止対策)	I-4-3
		4-3	4号炉 系統概要図 (格納容器破損防止対策)	I-4-4
		4-4	4号炉 系統概要図 (拡散抑制対策)	I-4-5



大項目		小項目		ページ
5	緊急時活動レベル関係	5-1	EAL判断ガイド（適合炉）	I-5-1~76
		5-2	EAL判断フローチャート（適合炉）	I-5-77~114
6	手順書	6-1	AOP 第1章 原子炉スクラム時運転操作手順書	I-6AO-1~4
		6-2	AOP 第2章 冷却材喪失時運転操作手順書	I-6AO-5~10
		6-3	AOP 第3章 配管破断事故時運転操作手順書	I-6AO-11~14
		6-4	AOP 第4章 原子炉給水喪失時運転操作手順書	I-6AO-15~20
		6-5	AOP 第5章 原子炉冷却材再循環系事故時運転操作手順書	I-6AO-21~30
		6-6	AOP 第6章 制御棒異常事故時運転操作手順書	I-6AO-31~36
		6-7	AOP 第7章 燃料破損事故時運転操作手順書	I-6AO-37~38
		6-8	AOP 第8章 タービン発電機事故時運転操作手順書	I-6AO-39~44
		6-9	AOP 第9章 循環水系事故時運転操作手順書	I-6AO-45~49
		6-10	AOP 第10章 電源系喪失時運転操作手順書	I-6AO-50~80
		6-11	AOP 第11章 機器冷却水系喪失時運転操作手順書	I-6AO-81~85
		6-12	AOP 第12章 気体廃棄物処理系事故時運転操作手順書	I-6AO-86~87
		6-13	AOP 第13章 その他系統事故時運転操作手順書	I-6AO-88~90
		6-14	AOP 第14章 自然災害時運転操作手順書	I-6AO-91~96
		6-15	AOP 第15章 火災事故時運転操作手順書	I-6AO-97~112

大項目		小項目		ページ
6	手順書	6-16	EOP 【RC】スクラム	I -6EO-1~2
		6-17	EOP 【RC/Q】反応度制御	I -6EO-3
		6-18	EOP 【RC/L】水位制御	I -6EO-4
		6-19	EOP 【CD】減圧冷却	I -6EO-5
		6-20	EOP 【PC/P】PCV圧力制御	I -6EO-6
		6-21	EOP 【DW/T】D/W温度制御	I -6EO-7
		6-22	EOP 【SP/T】SP温度制御	I -6EO-8
		6-23	EOP 【SP/L】SP水位制御	I -6EO-9
		6-24	EOP 【PC/H】水素濃度制御	I -6EO-10
		6-25	EOP 【SC/C】RB制御	I -6EO-11
		6-26	EOP 【SF/L,T】SFP水位制御、温度制御	I -6EO-12
		6-27	EOP 【C1】不測事態水位回復	I -6EO-13
		6-28	EOP 【C2】急速減圧	I -6EO-14
		6-29	EOP 【C3】水位不明	I -6EO-15
		6-30	EOP 【C4】炉心損傷初期対応	I -6EO-16
		6-31	EOP 【PS/R】交流・直流電源復旧	I -6EO-17~18
6-32	EOP 停止時	I -6EO-19		
6-33	EOP 緊急時アクションレベル	I -6EO-20~22		

大項目		小項目		ページ
6	手順書	6-34	SOP-1 RPV制御 フローチャート	I -6SOP-1~2
		6-35	SOP-1 RPV制御 図・表シート	I -6SOP-3
		6-36	SOP-2 PCV制御 フローチャート	I -6SOP-4
		6-37	SOP-3 R/B制御 フローチャート	I -6SOP-5
		6-38	SOP アクションレベル	I -6SOP-6
		6-39	SOP 操作テーブル	I -6SOP-7
		6-40	外部接続口	I -6SOP-8
		6-41	欠番	欠番
		6-42	欠番	欠番
		6-43	欠番	欠番
		6-44	EHG 対応の全体フロー概略（大地震等の事前予測ができない事象の場合）	I -6EH-1
		6-45	EHG 対応の全体フロー概略（大津波警報の発表（事前予測が出来る事象）の場合）	I -6EH-2
		6-46	EHG 対応の全体フロー概略（大型航空機の衝突の場合）	I -6EH-3
		6-47	EHG 対応の全体フロー概略（テロリズムの発生の場合）	I -6EH-4
		6-48	EHG 初動対応フロー	I -6EH-5~7
		6-49	EHG 個別戦略フロー	I -6EH-8~17

大項目		小項目		ページ
7	個別手順と仕様	7-1	対策の概要（炉心損傷防止対策）	I-7-1
		7-2	対策の概要（格納容器破損防止対策）	I-7-2
		7-3	対策の概要（放射性物質の拡散抑制対策）	I-7-3
		7-4	注水設備のスペック	I-7-4~6
		7-5	可搬型設備の出動条件	I-7-7~10
		7-6	可搬型設備の保管場所	I-7-11
		7-7	可搬型設備等を用いた注水確保	I-7-12~20
		7-8	可搬型設備等を用いた格納容器破損防止	I-7-21~30
		7-9	可搬型設備等を用いた燃料プール注水対策	I-7-31~41
		7-10	可搬型設備等を用いた除熱機能の確保	I-7-42~45
		7-11	可搬型設備等を用いた電源確保	I-7-46~55
		7-12	可搬型設備等を用いた拡散抑制	I-7-56~63

大項目		小項目		ページ
8	有効性評価 (手順概要と作業時間)	8-1	TQUV	I-8-1~5
		8-2	TQUX	I-8-6~8
		8-3	TB	I-8-9~13
		8-4	TW (取水機能喪失)	I-8-14~15
		8-5	TW (RHR故障)	I-8-16~21
		8-6	TC	I-8-22~23
		8-7	LOCA	I-8-24~28
		8-8	IS-LOCA	I-8-29~30
		8-9	津波	I-8-31~34
		8-10	大LOCA(RPV健全)	I-8-35~40
		8-11	TQUV(RPV破損)	I-8-41~46
		8-12	大LOCA(RPV破損)	I-8-47~52
		8-13	水素燃焼	I-8-53~54
		8-14	燃料プール(想定事故1)	I-8-55~57
		8-15	燃料プール(想定事故2)	I-8-58~60
		8-16	停止時TW	I-8-61~63
		8-17	停止時TB	I-8-64~66
		8-18	停止時LOCA	I-8-67~69
8-19	停止時反応度誤投入	I-8-70		

00 | 浜岡原子力発電所 原子力災害時の対応資料集 目次

大項目		小項目		ページ
9	運転号炉用COP	9-1	4号炉（COP1：機能別状況シート）	I-9-1
		9-2	4号炉（COP2：設備状況シート）	I-9-2
		9-3	4号炉（COP3：重大な局面シート）	I-9-3
10	燃料プール関係	10-1	燃料プール基本情報	I-10-1
		10-2	4号炉 燃料プール関係資料	I-10-2~6
11	放射性物質放出に係る既存の評価結果	11-1	放射性物質放出に係る既存の評価結果	I-11-1~2



# 浜岡原子力発電所 原子力災害時の対応資料集 【第Ⅱ編 未適合炉】

2023年2月（更新作業中）

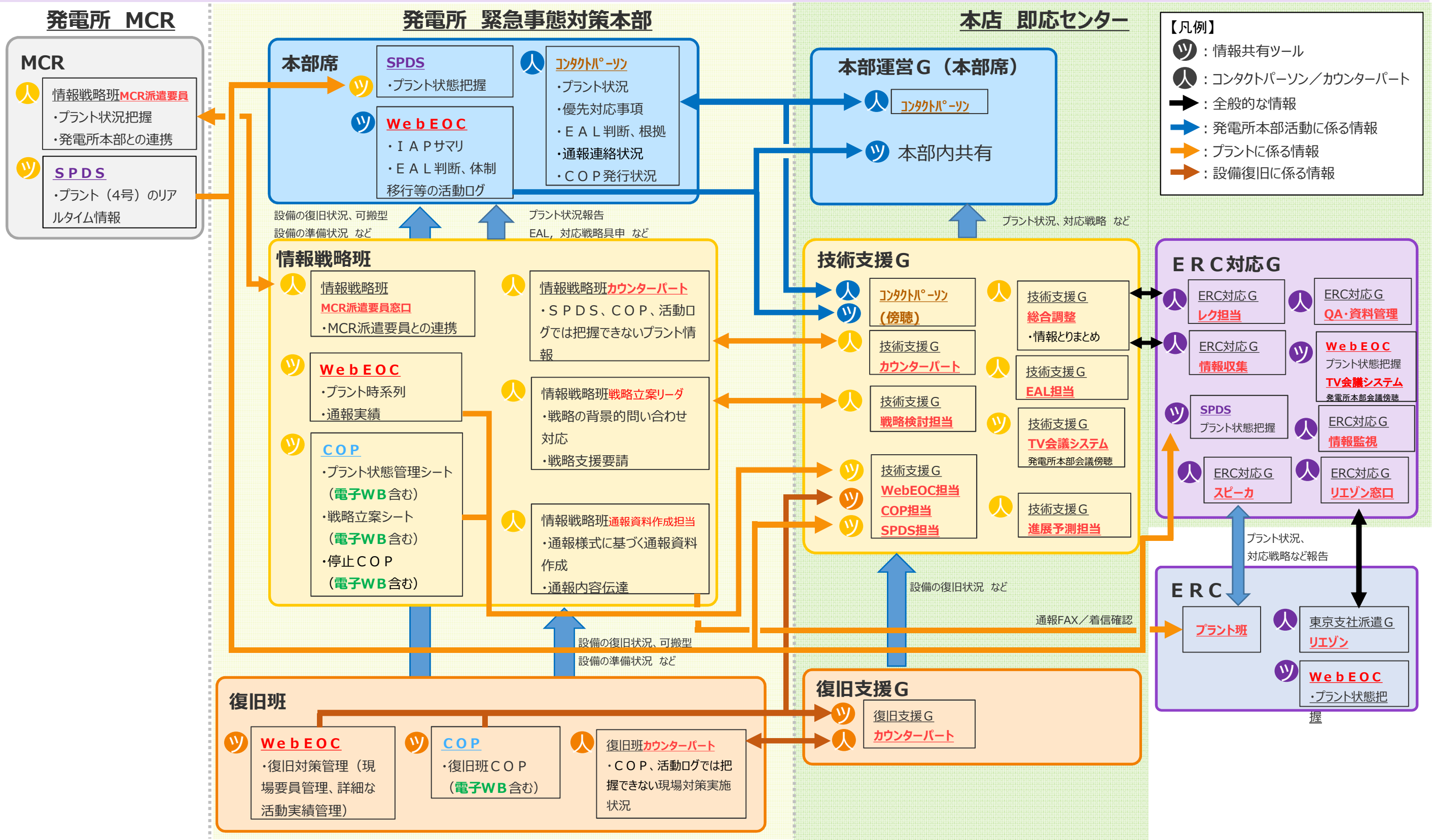
大項目		小項目		ページ
1	設備全般	1-1	設備概要	II-1-1~3
		1-2	浜岡原子力発電所 全体配置図	II-1-4~5
		1-3	敷地高さ	II-1-6
		1-4	アクセスルート・資機材保管場所	II-1-7
		1-5	敷地境界付近のモニタリングポスト設置場所	II-1-8
		1-6	気象観測装置	II-1-9
2	機器配置図	2-1	3号炉 機器配置図	II-2-1~7
		2-2	3号炉 スクラム用地震計配置図	II-2-8
		<del>2-3</del>	<del>4号炉 機器配置図</del>	II-2-9~15 (欠番)
		<del>2-4</del>	<del>4号炉 スクラム用地震計配置図</del>	II-2-16 (欠番)
		2-5	5号炉 機器配置図	II-2-17~24
		2-6	5号炉 スクラム用地震計配置図	II-2-25



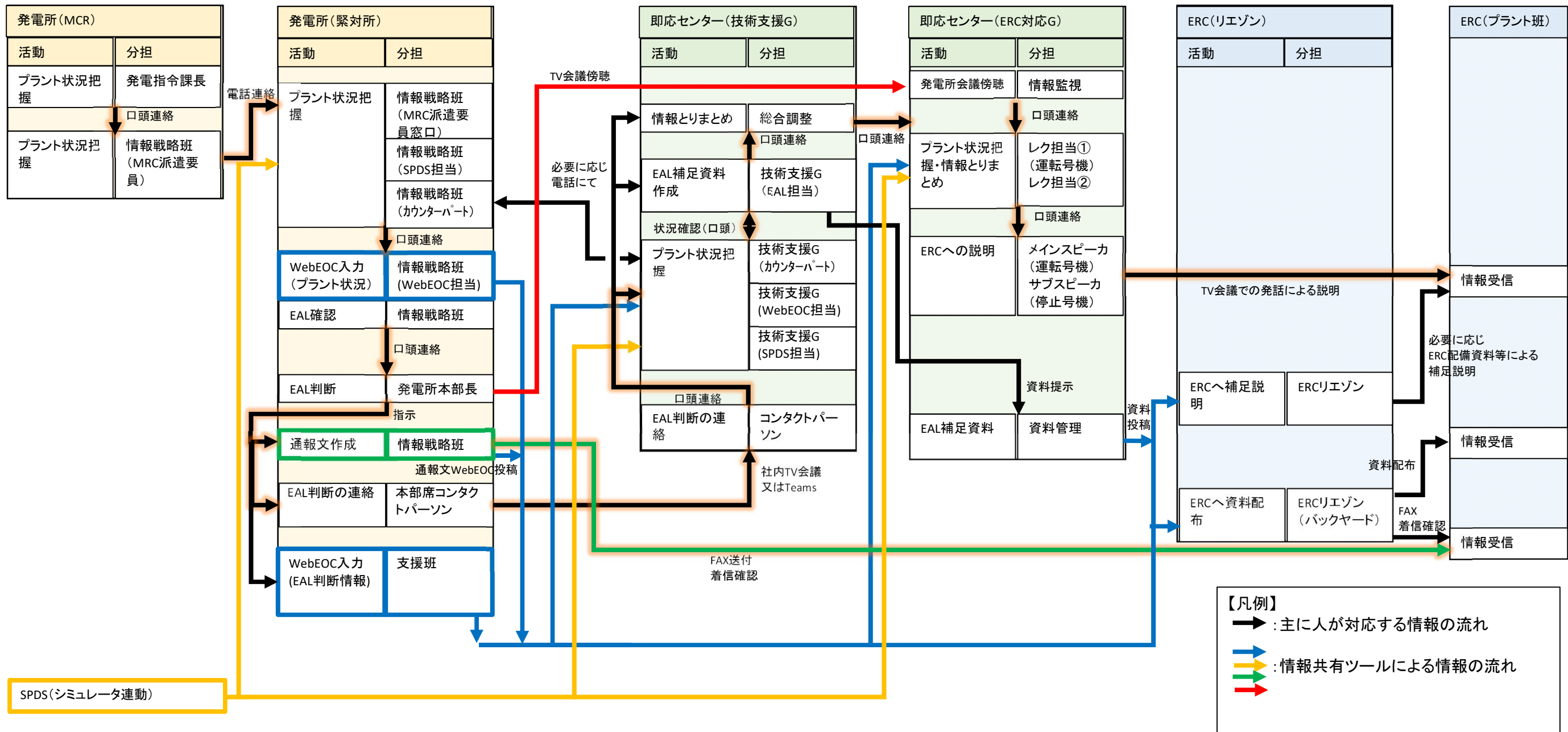
大項目		小項目		ページ
3	電源系統図	3-1	電力設備系統図, 発電設備の内訳	II-3-1
		3-2	外部電源系統図	II-3-2
		3-3	所内電源系統 単線結線図 (全体)	II-3-3
		3-4	3号炉 所内単線結線図	II-3-4
		<del>3-5</del>	<del>4号炉 所内単線結線図</del>	II-3-5~6 (欠番)
		3-6	5号炉 所内単線結線図	II-3-7
		3-7	電源融通系統図	II-3-8
4	燃料プール関係	4-1	緊急安全対策の概要	II-4-1~6
		4-2	燃料プール基本情報	II-4-7
		4-3	3号炉 燃料プール関係資料	II-4-8~14
		<del>4-4</del>	<del>4号炉 燃料プール関係資料</del>	II-4-15~21 (欠番)
		4-5	5号炉 燃料プール関係資料	II-4-22~28
		4-6	3~5号炉 (共通) 燃料プール関係資料	II-4-29~31

大項目		小項目		ページ
5	緊急時活動レベル関係	5-1	EAL判断ガイド（未適合炉）	II-5-1~32
		5-2	EAL判断フローチャート（未適合炉）	II-5-33~52
		5-3	EAL判断ガイド（廃止措置炉）	II-5-53~62
		5-4	EAL判断チャート（廃止措置炉）	II-5-63~71
6	停止号機用COP	6-1	3号炉COP	II-6-1~3
		<del>6-2</del>	<del>4号炉COP</del>	II-6-4~6 (欠番)
		6-3	5号炉COP	II-6-7~9
7	防災体制	7-1	原子力防災体制	II-7-1
		7-2	原子力事業所及び原子力事業所災害対策支援拠点の位置	II-7-2
		7-3	浜岡原子力発電所へのアクセス	II-7-3
		7-4	中部電力本店の位置	II-7-4
8	周辺自治体	8	立地・周辺自治体	II-8-1
9	付録	9	略語集	II-9-1~13

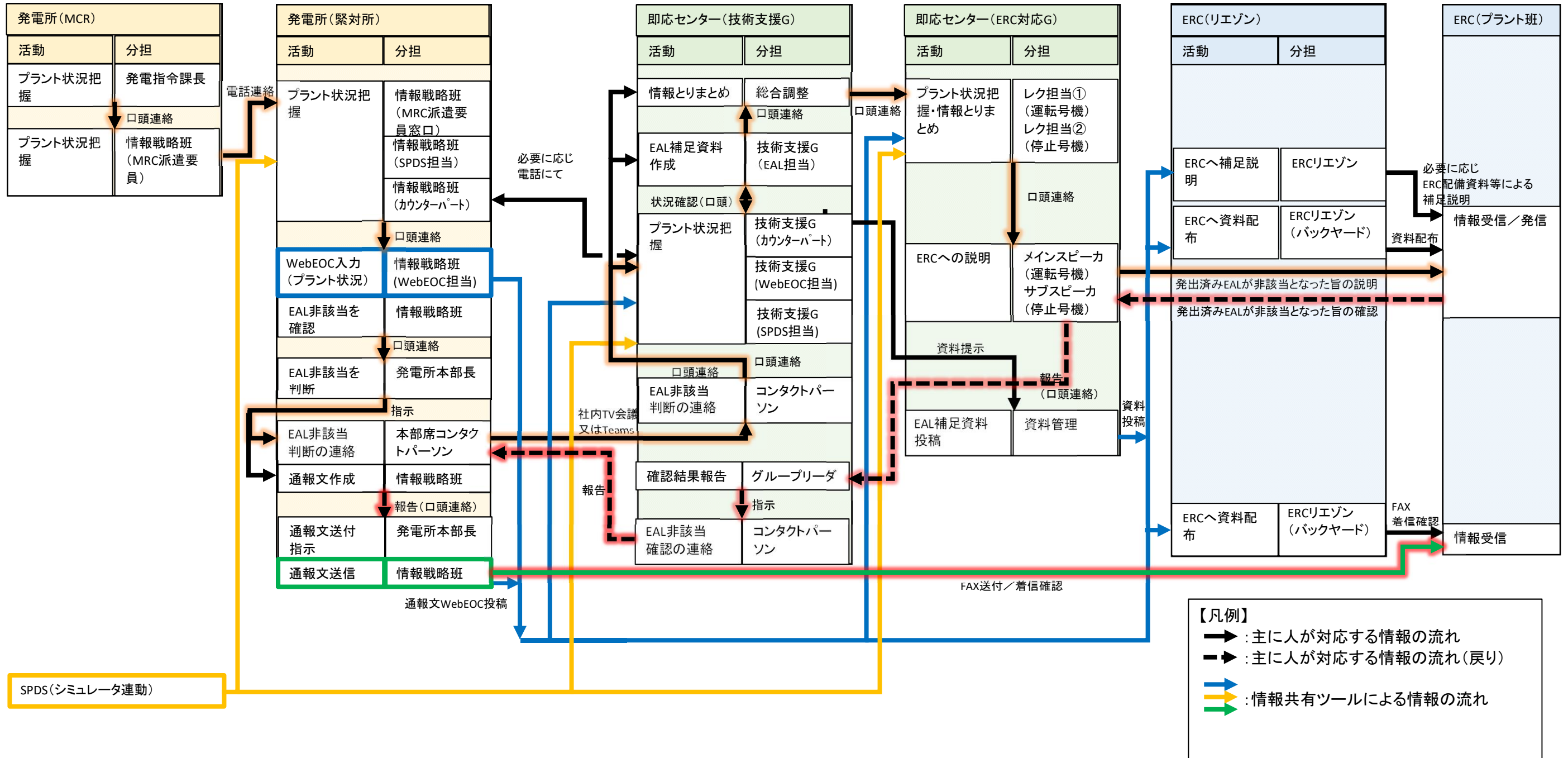
# ERCへの情報の流れ (全体)



①-1 EAL(発出)に関する連絡



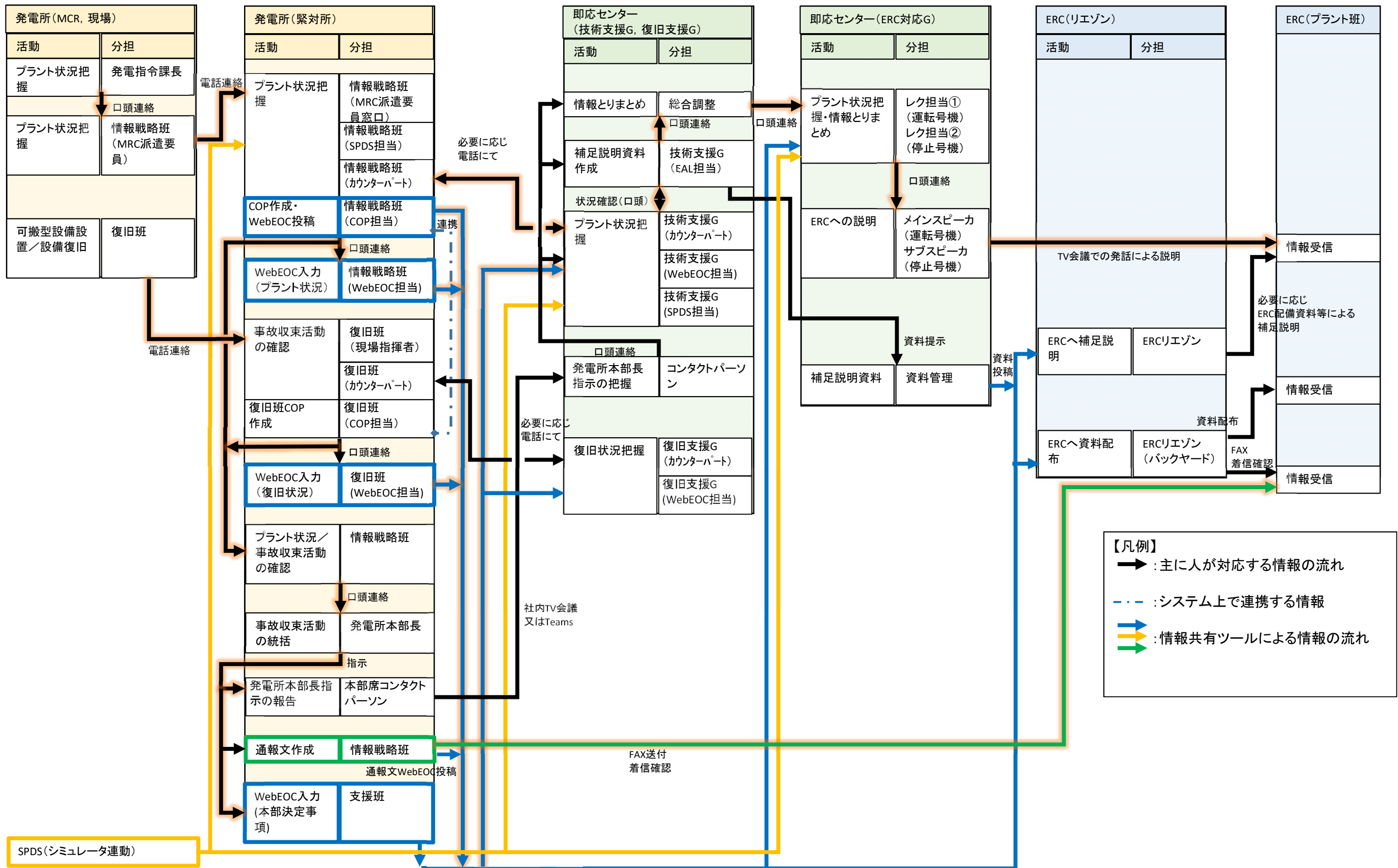
①-2 EAL(非該当になった場合)に関する連絡



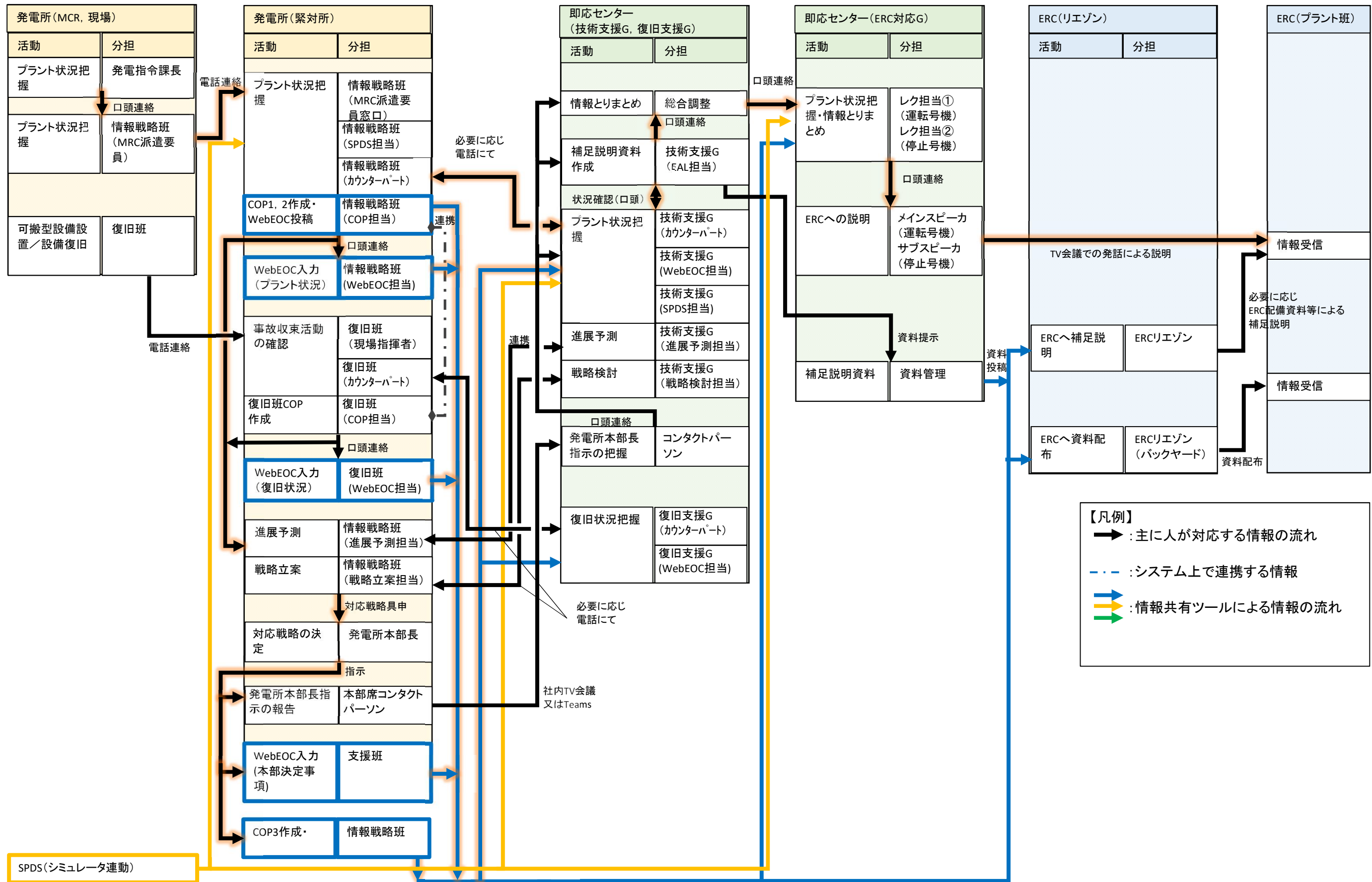
**【凡例】**  
 → : 主に人が対応する情報の流れ  
 ← : 主に人が対応する情報の流れ(戻り)  
 → : 情報共有ツールによる情報の流れ  
 → : 情報共有ツールによる情報の流れ



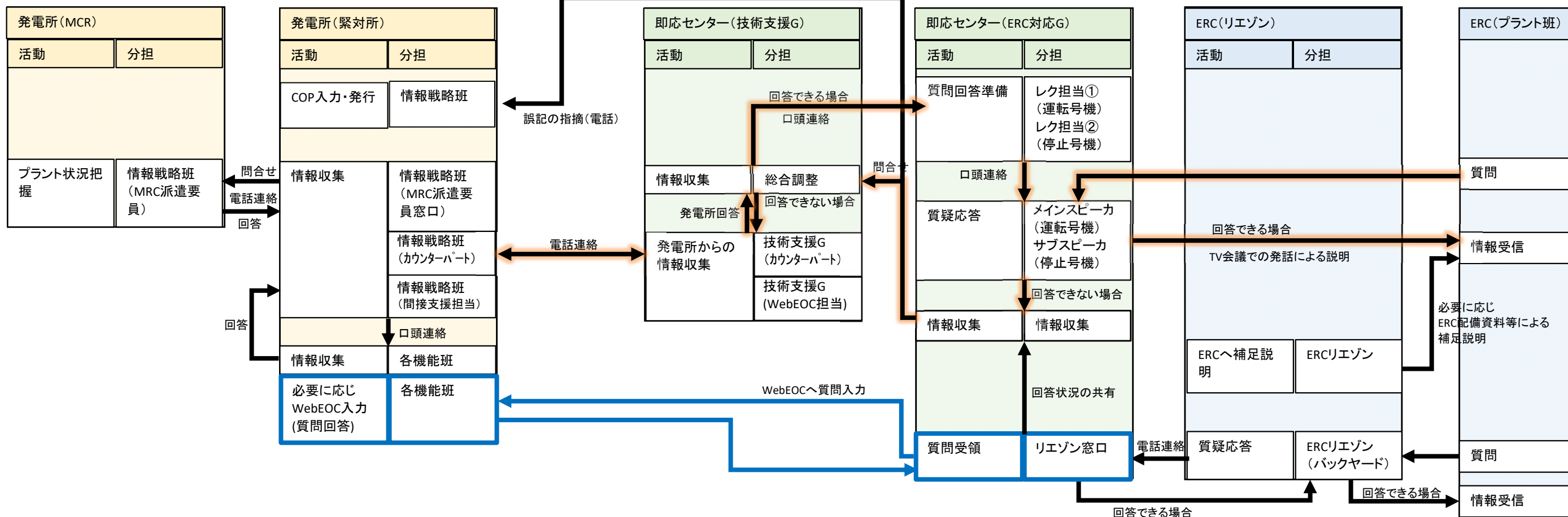
②事故・プラントの状況



③事故収束対応戦略, ④戦略の進捗



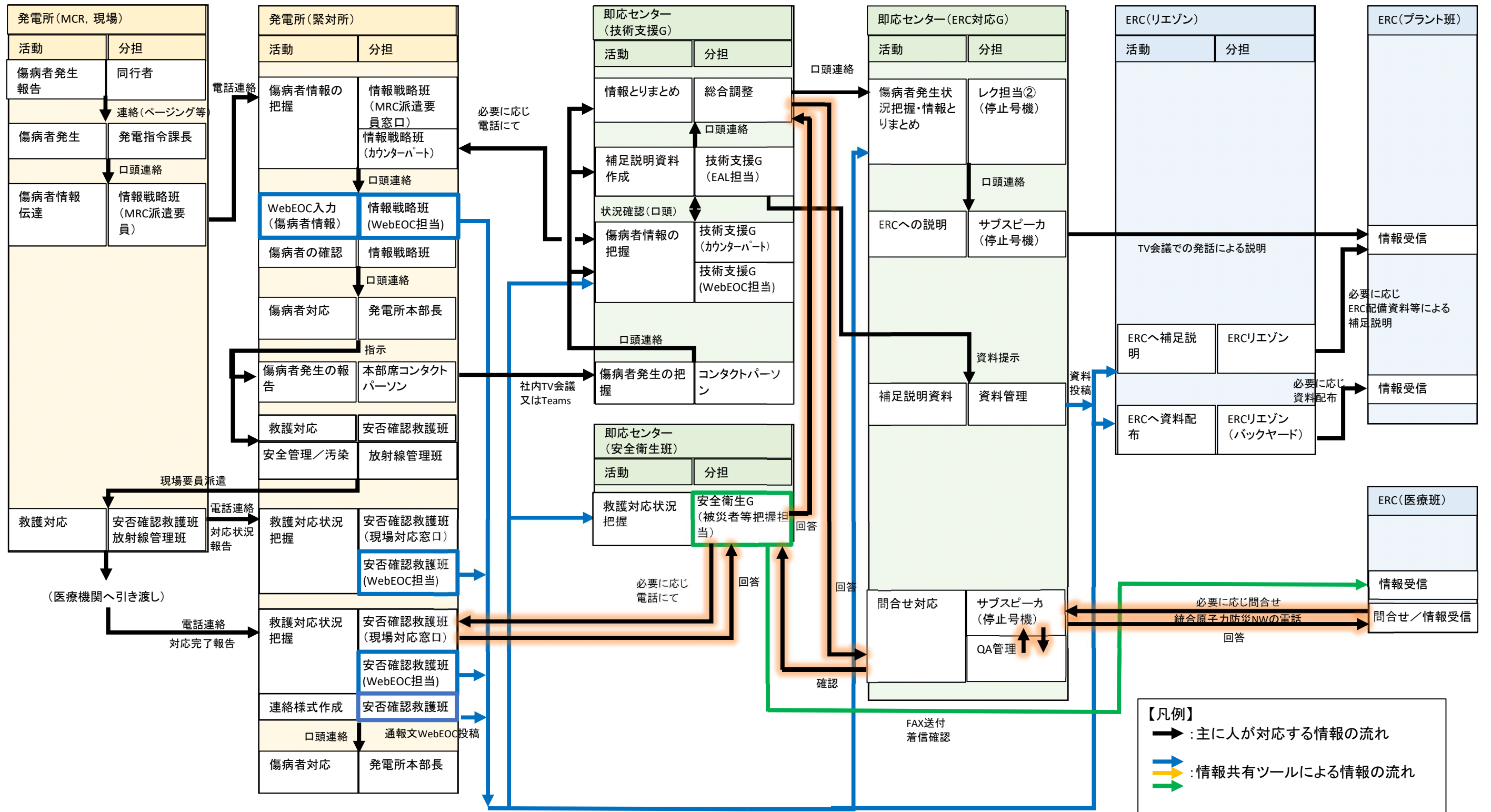
⑤ERCプラント班からの質問への回答



**【凡例】**  
 → :主に人が対応する情報の流れ  
 → :情報共有ツールによる情報の流れ



⑥傷病者情報



【凡例】  
 → : 主に人が対応する情報の流れ  
 → : 情報共有ツールによる情報の流れ



# ERC対応ブース発話者育成について

2022年 11月 29日  
原子力部 防災・核物質防護 G

- ・ 2021年度育成計画の実績反映
- ・ 2022年4月1日人事異動反映
- ・ 2022年8月1日人事異動反映

原子力部 防災・核物質防護グループ		
グループ長	関係者	担当
2022年11月29日 グループ長説明済		

## 1. 概要

原子力規制庁緊急対応センター（以下、「ERC」という。）への報告・連絡を行うERC対応グループにおけるERC対応ブース発話者（以下、「スピーカー」という。）の育成にあたっては、図上演習（本部運営習熟訓練）・総合訓練（社内全社訓練）・総合訓練（緊急事態対策訓練）等の実施により、力量の付与・維持向上に取り組んでいる。

## 2. スピーカー必要要員数

スピーカーについては、再稼働を見据えた体制を念頭に、運転号機のプラント状況・事象進展予測・対応戦略の説明を行う「メインスピーカー」、及び停止号機のプラント状況・傷病者情報等の説明を行う「サブスピーカー」の2名体制としている。

これに交代要員の2名（メインスピーカー1名、サブスピーカー1名）を加えた、4名（メインスピーカー2名、サブスピーカー2名）を必要要員数としている。

### 3. 育成計画

これまでに（2021年度末）、7名（メイン・サブスピーカー力量保有者：6名、サブスピーカー力量保有者：1名）のスピーカー育成を行ってきたものの、現在、ERC対応グループに所属しているスピーカーは、1名（メイン・サブスピーカー力量保有者：1名、サブスピーカー力量保有者：0名）となっている。

今後の人事異動等による減員を考慮し、必要要員数4名（メインスピーカー2名、サブスピーカー2名）のスピーカー確保のため、毎年、新規スピーカーを育成し、スピーカーの増員（メインスピーカー1名、サブスピーカー1名）を行う計画である。

なお、スピーカー育成までの当座の間は、スピーカー不足時の応急処置として、本店他G所属の者に応援を依頼することで手当てが出来る。

### 4. 育成スケジュール

ERC対応グループに所属するスピーカー未経験者の中から、年度初めにメインスピーカー及びサブスピーカーの候補を選定し、年度を通して図上演習（本部運営習熟訓練）・総合訓練（社内全社訓練）・総合訓練（緊急事態対策訓練）においてスピーカーを担当し、力量を付与する。

なお、既に力量を維持しているスピーカーについては、1回／年以上、訓練においてスピーカーを担当し、能力維持を行う。

また、人事異動の際にスピーカー候補となる要員を計画的に増員していく。

# スピーカー育成スケジュール

要員	年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
A (力量保持者)		訓練 (1回/年以上)			
B (2022年新規)		メインスピーカー	訓練 (1回/年以上)		
C (2022年新規)		サブスピーカー	訓練 (1回/年以上)	メインスピーカー	訓練 (1回/年以上)
D (2023年新規)			メインスピーカー	訓練 (1回/年以上)	
E (2023年新規)			サブスピーカー	訓練 (1回/年以上)	メインスピーカー
F (2024年新規)				サブスピーカー	訓練 (1回/年以上)
<b>確保要員数</b>		<b>1名</b> メイン・サブ力量保有者 : 1名 サブ力量保有者 : 0名	<b>3名*</b> メイン・サブ力量保有者 : 2名 サブ力量保有者 : 1名	<b>5名*</b> メイン・サブ力量保有者 : 3名 サブ力量保有者 : 2名	<b>6名*</b> メイン・サブ力量保有者 : 4名 サブ力量保有者 : 2名

抽出 訓練名	対応 箇所	訓練における気づ き事項等	原因特定	改善活動及び検証状況	関係する 評価 PI
陸上輸送 訓練 2021.8.25	発電所	図面（キャスクや 地図等）を用意し ておくと情報が共 有しやすい。	（原因・課題） 輸送事故での情報共有方法について口頭のみで行っていた。 （対策） キャスク図面や放射線モニタの値等を記入できる「輸送 COP」を作成する。	（改善活動） キャスク図面や放射線モニタの値等を記入 できる「輸送 COP」を作成し、発電所本部内 の情報共有を図った。 （検証状況） 2022.8.8 社内訓練にて検証し、結果良好。	指標 1
緊急事態 対策訓練 2022.3.1	発電所	発電所の意思決定 を、OFC 班がタイ ムリーに把握でき なかつた。	（原因・課題） 発電所の状況や対応方針について、情報収集すべき情報の整 理、情報収集のためのインフラの配備、体制の構築ができて いなかった。 （対策） OFC 事業者ブースに社内無線 LAN を設置し WebEOC 活動 ログを確認できるようにする。 可搬型 TV 会議システムを用い、発電所と本店のやりとりを 傍聴し、発電所の意思決定の情報をタイムリーに把握する。	（改善活動） OFC 事業者ブースに社内無線 LAN を設置し WebEOC 活動ログを確認できるようにした。 （11 月上旬実施） 可搬型 TV 会議システムを用い、発電所の意 思決定の情報をタイムリーに把握できる運 用とした。 （検証状況） 2022.12.1 社内訓練にて検証し、結果良好。	指標 3
緊急事態 対策訓練 2022.3.1	発電所	復旧班長が戦略ブ リーフィングの際 に、不在になる時 間があり、状況が 把握できない場合 があった。	（原因・課題） 復旧班長が、戦略ブリーフィングを実施する際に、席を離れ ると状況把握が出来ない。 （対策） 本部席内に復旧班のリエゾン配置し、戦略ブリーフィングの 際に復旧班長が復旧班席から離れない運用とする。	（改善活動） 本部席内に復旧班のリエゾン配置し、戦略ブ リーフィングの際に復旧班長が復旧班席か ら離れない運用とした。 （検証状況） 2022.5.17 社内訓練で検証し、結果良好。 2022.5.23 社内訓練で検証し、結果良好。	指標 1
習熟訓練 2022.5.17	発電所	支援班の緊对本部 内マイク発話にお いて、他班のプラ ント状態共有のマ	（原因・課題） 重要度の低い情報も周知する運用であった。（インシデント 名称の決定、トランシーバー活用連絡） （対策）	（改善活動） 重要度の低い内容について、マイク発話をや め、WebEOC による周知を行うようにマニ ュアルを改正した。	指標 1

		イク発話に被せてしまう場面があった。	マイク発話事項の見直しを行い、マニュアルへの反映を行う。	(検証状況) 2022.11.1 社内訓練で検証し、結果良好。 2022.11.8 社内訓練で検証し、結果良好。	
緊急事態 対策訓練 2022.3.1	本店	本店内各会議室で活動する機能班から、本店本部会議を傍聴したいと要望があった。	(原因・課題) TV 会議システムのない部屋で活動する機能班があり、本店本部の様子をタイムリーに把握できない。 (対策) WebEX のクラウド会議室を活用し、各要員の PC から本店本部会議を傍聴できる仕組みを整える	(改善活動) WebEX クラウド会議室により、各要員の PC から本店本部会議を傍聴できる運用を整備し、マニュアルに反映した。 (検証状況) 2022.11.8 社内訓練で検証し、結果良好。 2022.12.1 社内訓練で検証し、結果良好。	—
全社防災 訓練 2021.12.1	本店	本店本部会議において、フォネティックコードの使用をしていない。	(原因・課題) 本店本部会議においてフォネティックコードが使用されていなかったため、ヒューマンエラー防止の為に使用をするべきである。 (対策) 本店本部会議においてフォネティックコードを使用する運用とする。	(改善活動) 本店本部会議においてフォネティックコードを使用する運用とし、訓練の都度周知し意識づけを行った。 (検証状況) 2022.12.1 社内訓練で検証し、結果良好。	—
習熟訓練 2022.5.17	本店	記者会見対応等において、本店本部とよりタイムリーに連携する必要がある。	(原因・課題) 広報 G は記者会見対応室で活動しており、本店本部との緊密な連携が出来ていない。 (対策) 本店本部に広報 G の本部連携要員を追加で配置する。	(改善活動) 本店本部に広報 G の本部連携要員を追加で配置し、情報連携活動の訓練を実施した。 (検証状況) 2022.12.1 社内訓練で検証し、結果良好。	指標 8
習熟訓練 2022.5.17	本店	技術支援 G において、機器の立ち上げ・操作に戸惑っている場面が見られた。	(原因・課題) 機器の操作が属人化しており、全ての要員が機器を操作できるようになっていない。 (対策) 機器の操作法マニュアルを整備の上教育し、訓練において習熟を図る。	(改善活動) 機器の操作法マニュアルを整備の上教育し、訓練において習熟を図った。 (検証状況) 2022.11.1 社内訓練で検証し、結果良好。 2022.11.8 社内訓練で検証し、結果良好。	—

2022 度総合訓練に係る対応スケジュール

カテゴリ	実施事項	時期																		備考							
		2021 年度			2022 年度												2023 年度										
		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月								
CHECK	訓練報告	○2021 年度訓練報告書						▼													※1 訓練中長期計画見直しから必要に応じ反映						
ACTION	改善実施	○改善対策の具体化				[黒塗り]																					
		・様式, マニュアルの改訂				[黒塗り]																					
		・図上演習 (本部運営訓練)、社内総合訓練の実施						▼▼						▼▼	▼	▽	▽										
		○中長期計画見直し						▼			▼			▼													
PLAN	訓練計画	○2022 年度訓練計画策定				▼																					
DO	訓練実施	○2022 年度訓練実施																		▽							
CHECK	訓練評価	○訓練評価																				[黒塗り]					
		・社内自己評価																					[黒塗り]				
		・対策の有効性評価																						[黒塗り]			
		・パンチリスト対応																						[黒塗り]			
		・課題の抽出, 原因分析, 対策検討																						[黒塗り]			
		・対策の方針決定																						▽			
		○2022 年度訓練報告書																					▽				
ACTION	改善実施	○改善対策の具体化																			[黒塗り]						
		○中長期計画見直し																				▽					
		○事業者防災業務計画見直し検討開始																					(必要に応じて反映)				
PLAN	訓練計画	○2023 年度訓練計画策定																		▽	▽※1						
DO	訓練実施	○2023 年度訓練実施																			(未定)						